

## 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 追加選定リスト(原案)

「人と暮らしの伊那谷遺産」を収集整理した結果、これまでに約 270 の選定候補を抽出することができた。これらの中から、第 1 回および第 2 回選定委員会での指摘事項を踏まえて、次のとおり天竜川流域の水にまつわるものを中心に絞り込み作業を行い、新たに 31 件を追加選定し、都合 79 件の追加選定リスト(原案)を作成した。

### 1. 選定リストのランク付け

これまでに抽出した選定候補を次のとおりランク付けした。

ランク A：選定基準を満足し、選定すべきと考えられるもの（選定数 100 を当面の目標とする）

ランク B：選定基準との適合性や選定単位などの課題について、検討する必要があるもの（今後、課題について整理し、必要に応じて逐次「ランク A」とする）

### 2. 選定リスト「ランク A」作成にあたっての考え方

#### (1) 選定基準について

下記の選定基準に基づいて選定を行った。（除外の基準に該当するものを除く）

##### ・選定基準抜粋

<選定基準①> 土木工学的な工夫が認められる遺構

<選定基準②> 自然史や自然災害の歴史を示すもので、後世に引き継ぐべきもの

<選定基準③> 地域住民が生活していく上で、努力や工夫をしなければならなかった背景が判るもの

⇒選定基準②で云う「自然災害」は、主として次に示す著名な災害に該当するものとして、絞り込み作業を行った。

- ・未の満水：1715 年に発生した天竜川上流の洪水のなかでも特筆すべき被害を与えたもので、発生年の十二支から「未[ひつじ]の満水」と呼ばれている。

- ・三六災害：1961年(昭和36年)に発生した大雨による災害。特に長野県南部の伊那谷など天竜川流域に氾濫や土砂災害による甚大な被害を与えた事で知られている。
- ・遠山の地震：714年と1718年に発生した大きな地震により、山が崩れて遠山川がせき止められ、その後決壊し大きな被害を与えたことで知られている。

## (2) 空間、時間軸などの繋がりやストーリー性の取り扱いについて

⇒選定基準のいずれかに該当する地域資源を「空間、時間軸などの繋がりやストーリー性」に基づいて作成したキーワードごとにグループ化するなどの手法で優先的に選定した。

※下線部は、第2回選定委員会等の指摘により追加した地域資源

※(重複)は複数のキーワードに該当しているもの

### ① 「土木工学的な工夫」を重視したグループ

- (重複) ・ A003 上蔵砂防堰堤 (わぞさぼうえんてい)
- (重複) ・ A019 西天竜幹線水路 円筒分土工群 (にしてんりゅうかんせんすいろえんとうぶんすいこうぐん)
- (重複) ・ A020 東天竜一貫水路 (ひがしてんりゅういっかんすいろ)
- (重複) ・ A023 旧深沢川水路橋 (きゅうふかさわがわすいろきょう)
- (重複) ・ A030 北の沢眼鏡橋 (きたのさわめがねばし)
- (重複) ・ A031 坂戸橋 (さかどばし)
- (重複) ・ A041 泰阜ダム (やすおかだむ)
- (重複) ・ A047 三信鉄道 (さんしんてつどう)
- (重複) ・ A052 七釜砂防堰堤 (ななかまさぼうえんてい)
- ・ A055 美和ダム (みわだむ)
- ・ A056 小渋ダム (こしぶだむ)

### ② 「防災に対する意識」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

#### a 未の満水に学ぶことができるもの

- ・ A007 三界萬霊塔 (さんかいばんれいとう) / 六地藏 (ろくじぞう)
- ・ A014 夜泣き石 (よなきいし)
- ・ A015 夜泣き地藏 (よなきじぞう) / 出砂原の大石 (ださらのおおいし)

b 三六災害に学ぶことができるもの

- ・ A 0 0 5 川路郷家屋移転記念碑 (かわじのさとかおくてんきねんひ)
- ・ A 0 0 6 三六災最高水位標 (さぶろくさいさいこうすいひひょう)
- ・ A 0 0 8 大西山崩壊地 (おおにしやまほうかいち)
- ・ A 0 1 2 四徳集落跡 (しとくしゅうらくあと)
- ・ A 0 1 3 北川集落跡 (きたがわしゅうらくあと)
- (重複) ・ A 0 3 2 小渋橋 (こしぶばし)
- ・ A 0 8 0 濁流の子～伊那谷災害の記録～ (出版物)  
(だくりゅうのこ～いなだにさいがいのきろく～ (しゅっぱんぶつ))

c 遠山の地震に学ぶことができるもの

- ・ A 0 1 1 夜川瀬地区の氾濫 (よがわせちくのはんらん)
- ・ A 0 1 6 遠山の埋没林 (とおやまのまいぼつりん)

③ 「自然環境に適応してきた先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a 全国的にも希な地球活動の痕跡を体感できるもの

- ・ A 0 0 9 鳶ヶ巣大崩壊地 (とびがすだいほうかいち) / 鳶ヶ巣大崩壊地のビューポイント (とびがすだいほうかいちのびゅーぽいんと)
- ・ A 0 1 0 百間ナギ (ひゃっけんなぎ) / 百間ナギのビューポイント (ひゃっけんなぎのびゅーぽいんと)
- ・ A 0 3 7 千畳敷カール (せんじょうじきかーる)
- (重複) ・ A 0 3 8 田切地形 (たぎりちけい) / 田切地形のビューポイント (たぎりちけいのびゅーぽいんと)
- ・ A 0 5 3 茶臼ナギ (ちゃうすなぎ)
- ・ A 0 5 4 荒川大崩壊地 (あらかわだいほうかいち)
- ・ A 0 7 9 深見池 (ふかみいけ)

b 伊那谷特有の田切地形に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

- (重複) ・ A 0 3 8 田切地形 (たぎりちけい) / 田切地形のビューポイント (たぎりちけいのびゅーぽいんと)
- (重複) ・ A 0 3 0 北の沢眼鏡橋 (きたのさわめがねばし)
- (重複) ・ A 0 5 7 太田切川の井筋 (おたぎりがわのいすじ)
- (重複) ・ A 0 5 9 恩田井水 (おんだいすい)
- (重複) ・ A 0 6 0 千人塚公園 城ヶ池 (せんになづかこうえん じょうがいけ)

c 水害や土砂災害に適応してきた先人の足跡を体感できるもの

- ・ A 0 0 1 名古屋の水除け (なごやまのみずよけ)
- ・ A 0 0 2 理兵衛堤防 (りへえていぼう)
- (重複) ・ A 0 0 3 上蔵砂防堰堤 (わぞさぼうえんてい)
- ・ A 0 0 4 栗沢川掘り抜き (あわさわがわほりぬき)
- ・ A 0 1 8 河原弁天(後ろ向き弁天) (かわらべんてん(うしろむきべんてん))
- ・ A 0 3 9 霞堤 (かすみてい)
- ・ A 0 4 2 惣兵衛堤防 (そうべえていぼう)
- ・ A 0 4 8 伴野堤防 (とものでいぼう)
- ・ A 0 4 9 座光寺石川除 (ざこうじいしかわよけ)
- ・ A 0 5 0 お志茂の水よけ (おしものみずよけ)
- ・ A 0 5 1 日向澤砂防堰堤 (ひなたざわさぼうえんてい)
- (重複) ・ A 0 5 2 七釜砂防堰堤 (ななかまさぼうえんてい)

④ 「水の恵みとふれ合うことができる先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a 電源開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

- ・ A 0 1 7 平岡ダム (ひらおかだむ)
- (重複) ・ A 0 4 1 泰阜ダム (やすおかだむ)
- (重複) ・ A 0 4 7 三信鉄道 (さんしんてつどう)
- ・ A 0 6 3 小黒発電所 (おぐろはつでんしょ)
- ・ A 0 6 4 大久保発電所 (おおくぼはつでんしょ)

b 利水開発に挑んだ先人の情熱とふれ合うことができるもの

(伊那地域)

- (重複) ・ A 0 1 9 西天竜幹線水路 円筒分木工群 (にしてんりゅうかんせんすいろ えんとうぶんすいこうぐん)
- (重複) ・ A 0 2 0 東天竜一貫水路 (ひがしてんりゅういっかんすいろ)
- (重複) ・ A 0 2 3 旧深沢川水路橋 (きゅうふかさわがわすいろきょう)
- ・ A 0 2 4 伝兵衛五井 (でんべえごい)
- ・ A 0 2 5 木曾山用水 (きそやまようすい)
- ・ A 0 2 6 御子柴艶三郎による井戸 (みこしばつやさぶろうによるいど)
- (重複) ・ A 0 5 8 西天竜幹線水路 流末の階段工 (小沢のそろばん滝)  
(にしてんりゅうかんせんすいろ りゅうまつのかいだんこう)  
(おざわのそろばんたき)

(駒ヶ根地域)

- (重複) ・ A 0 5 7 太田切川の井筋 (おおたぎりがわのいすじ)
- (重複) ・ A 0 6 0 千人塚公園 城ヶ池 (せんになづかこうえん じょうがいけ)

(飯田地域)

- ・ A 0 2 1 竜西一貫水路 (りゅうさいいっかんすいろ)
- ・ A 0 2 2 竜東一貫水路 (りゅうとういっかんすいろ)
- ・ A 0 4 6 松川プール (まつかわぷーる)
- (重複) ・ A 0 5 9 恩田井水 (おんだいすい)

⑤ 「文化の交流に関する先人の足跡」を効果的に後世に引き継ぐことを重視したグループ

a 人々の暮らしを支えた中馬と通船の歴史を振り返ることができるもの

- ・ A034 入船船着場 (いりふねふなつきば)
- ・ A035 時又港 (ときまたこう)
- ・ A040 伊那街道(三州街道) (いなかいどう(さんしゅうかいどう))

b 人々の暮らしを支えた橋の歴史を振り返ることができるもの

- ・ A028 姑射橋 (こやきょう)
- ・ A029 南原橋 (みなばらはし)
- (重複) ・ A030 北の沢眼鏡橋 (きたのさわめがねばし)
- (重複) ・ A031 坂戸橋 (さかどばし)
- (重複) ・ A032 小渋橋 (こしぶばし)
- ・ A033 びったら橋 (びったらばし)
- ・ A043 大橋 (おおはし)
- ・ A065 虹橋 (にじばし)
- ・ A066 めがね橋 (長姫橋) (めがねばし (おさひめばし))
- ・ A067 伊那路橋 (いなじばし)
- ・ A068 北の城橋 (きたのじょうばし)
- ・ A069 中之橋 (なかのばし)
- ・ A070 南宮大橋 (なんぐうおおはし)
- ・ A071 天竜橋 (てんりゅうばし)
- ・ A072 羽衣崎橋 (はごろもざきばし)

c 人々の暮らしを支えた森林鉄道の歴史を振り返ることができるもの

- ・ A061 三峰川の森林鉄道跡 (みぶがわのしんりんてつどうあと)
- ・ A062 遠山の森林鉄道 梨元貯木場 (とおやまのしんりんてつどう なしもとちょぼくじょう)

d 人々の暮らしを支えた峠の歴史を振り返ることができるもの

- ・ A073 牛首峠 (うしくびとうげ)
- ・ A074 地蔵峠 (じぞうとうげ)
- ・ A075 善知鳥峠 (うとうとうげ)
- ・ A078 大平峠 (おおだいらとうげ)

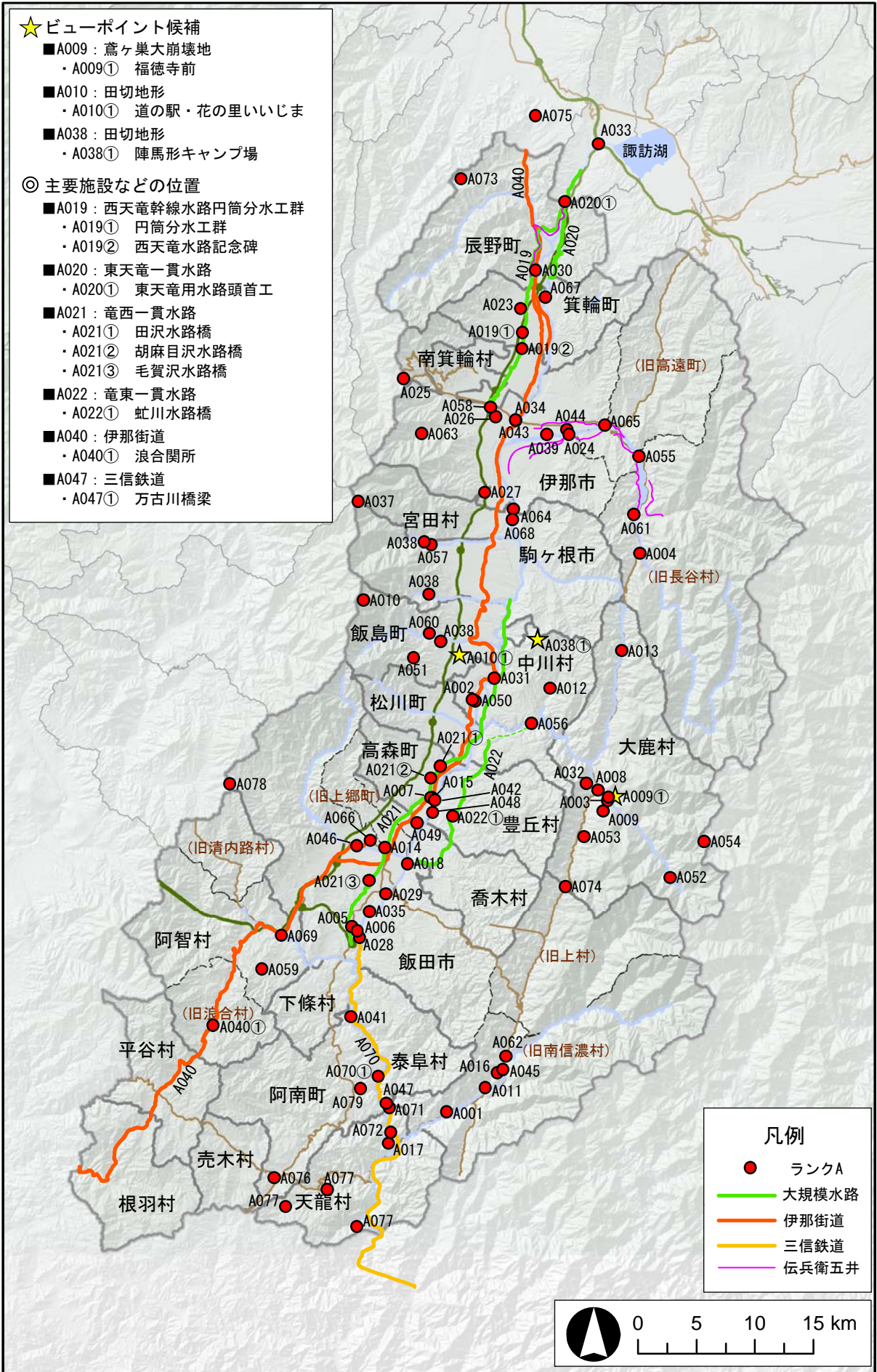
e 自然と共生してきた先人の暮らしを体感できるもの

- ・ A027 伊那市諏訪形の猪垣 (いなしすわがたのししがき)
- ・ A044 さんよりこより
- ・ A045 遠山の霜月祭り (とおやまのしもつきまつり)
- ・ A076 雪祭 (ゆきまつり)
- ・ A077 天龍村の霜月神楽 (てんりゅうむらのしもつきかぐら)

(3) 地域毎のバランスについて

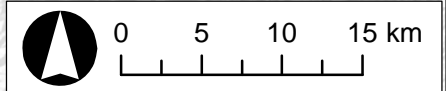
選定した地域資源の分布状況を別紙－1に整理した。今後、これらの分布状況にも考慮して追加選定作業を進めるものとする。

- ★ビューポイント候補
  - A009：鳶ヶ巣大崩壊地
    - ・A009① 福德寺前
  - A010：田切地形
    - ・A010① 道の駅・花の里いいじま
  - A038：田切地形
    - ・A038① 陣馬形キャンプ場
- ◎主要施設などの位置
  - A019：西天竜幹線水路円筒分水工群
    - ・A019① 円筒分水工群
    - ・A019② 西天竜水路記念碑
  - A020：東天竜一貫水路
    - ・A020① 東天竜用水路頭首工
  - A021：竜西一貫水路
    - ・A021① 田沢水路橋
    - ・A021② 胡麻目沢水路橋
    - ・A021③ 毛賀沢水路橋
  - A022：竜東一貫水路
    - ・A022① 虻川水路橋
  - A040：伊那街道
    - ・A040① 浪合関所
  - A047：三信鉄道
    - ・A047① 万古川橋梁



**凡例**

- ランクA
- 大規模水路
- 伊那街道
- 三信鉄道
- 伝兵衛五井





■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
1.治水	堤防	A	A001	名古屋の水除け	南信濃の南和田名古屋山のゆるい斜面は、崖崩れと土石流によってできたものである。江戸時代につくられた水除けの堤防が残っている家があり、昭和の初めの土石流でも家を守った。	飯田市南信濃南和田	3		飯田市	江戸時代		水害・土砂災害	
1.治水	堤防	A	A002	理兵衛堤防	中川村にある、松村理兵衛忠欣、常邑、忠良の三代にわたって天竜川に築かれた堤防。1808(文化5)年に完成。天竜川の大水の度に決壊し、そのつど補強や増築を繰り返してきた。時には新たに作り替えもしてきた。現在も現地に保存されており、天の中川橋からその一部を見ることができる。また、一部は天の中川橋のたもとに移築復元されている。	中川村片桐	3		中川村	江戸時代 (安永元年～文化5年)	1772～1808	水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A	A003	上蔵砂防堰堤	小渋川に築かれた堤高23mのアーチ式コンクリート造堰堤。1954(昭和29)年完成した天竜川流域唯一のアーチ式砂防ダム。1951(昭和26)年着工で1954(昭和29)年に完成したが、その後の洪水で底ぬけを起こし、1961(昭和36)年に復旧事業が行われた。1966(昭和41)年度には副ダムの嵩上げ、1970(昭和45)年には第2副ダムが施工され、現在に至っている。2009(平成21)年に国の登録有形文化財に登録された。	大鹿村大河原	1,3		大鹿村	昭和29年完成	1951～1954	土木工学的な工夫 /水害・土砂災害	
1.治水	砂防工事	A	A004	粟沢川掘り抜き	粟沢川の氾濫を防ぐため、切り通しを掘り、粟沢川の流路を三峰川へ繋げるように変更する大工事を実施した。主な工事は1844(弘化元)年に一段落をみた。道路工事により掘り抜きを拡幅し、往時の雰囲気は留めていない。掘り抜きの上流に由来を示す看板と市野瀬城主の墓石がある。	伊那市長谷市野瀬	3		伊那市	江戸時代 (弘化元年)	1844	水害・土砂災害	
1.治水	碑など	A	A005	川路郷家屋移転記念碑	三六災害により川路地区の低平地の家屋は壊滅的な打撃を受け、災害後移転した。1966(昭和41)年に現在の堤防が完成し、家屋の移転が終わったのを記念して建てられた記念碑。川路駅周辺の旧国道沿いには170戸が移転した跡地に塀や門が残されている。	飯田市川路	2		飯田市	昭和36年	1961	三六災害	昭和41年
1.治水	碑など	A	A006	三六災最高水位標	天竜川総合学習館にある三六災害時の最高水位を示す標柱。地上から3～4mの高さまで水位が上昇したことが示されている。	飯田市川路	2		飯田市	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	碑など	A	A007	三界萬壺塔／六地藏	三界萬壺塔には、未の満水でなくなった多くの人々や獣などの冥福を祈る言葉が彫つてある。1695(元禄8年)に松岡山安養寺の了溪禅師が建立した。六地藏は、1841(天保12)年に再建された。市田駅近くにある。	高森町下市田	2		高森町	江戸時代 (正徳5年)	1715	未の満水	江戸時代 元禄8年 /天保12年
1.治水	崩壊地	A	A008	大西山崩壊地	1961(昭和36)年6月29日、大鹿村の小渋川沿いにある大西山が大崩壊した。崩壊は高さ450m、幅500m、厚さ15mに渡り、大量の石や土砂が小渋川の堤防よりかはるかに高い山津波となって対岸の家屋に押し寄せた。濁流によって約30万m <sup>2</sup> が消失し、家屋40戸が流され、42名の命を奪った。	大鹿村大河原	2		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	崩壊地	A	A009	鷹ヶ巣大崩壊地／鷹ヶ巣大崩壊地のビューポイント	明治以前から崩壊が続いている面積が30haにも及ぶ大崩壊地。土砂が小渋川をせき止め、たびたび災害を引き起こしていた。川沿いには押し出された扇状地が小渋川に削られて、何層にもなったレキ層が見られる。大鹿村上蔵の福徳寺前から崩壊地が望め、案内看板もある。	大鹿村大河原／大鹿村上蔵	2		大鹿村	明治以前から続く		地球活動の痕跡	
1.治水	崩壊地	A	A010	百間ナギ／百間ナギのビューポイント	与田切川の源流部に存在する「百間ナギ」と呼ばれる大崩壊地は、崩壊で堆積した礫層の厚さが60mに達し、現在も常に土砂の流出が続いている。道の駅・花の里いいじま付近から望むことが出来る。	飯島町／飯島町七久保 (道の駅・花の里いいじま)	2		飯島町	現在も続く崩落		地球活動の痕跡	
1.治水	被災地	A	A011	夜川瀬地区の氾濫	1718(享保3)年の地震(遠山地震)により、盛平山の北斜面が崩落し、岩塊が遠山川を堰き止めた。この時できた山が出山であり、亡くなった人の供養塔もある。遠山川が堰き止められて天然ダムができたが夜に決壊し、遠山川沿いにある和田集落の対岸の「夜川瀬地区」に土砂が流出・堆積して一夜にして氾濫原ができた。	飯田市南信濃和田	2		飯田市	江戸時代 (享保3年)	1718	遠山地震	
1.治水	被災地	A	A012	四徳集落跡	周辺地域は小さい谷が網の目のように広がる丘陵地帯で、三六災害時には、土石流が起こり、小渋川合流点で河床が約10m上昇した。中川村の四徳集落では80戸のうち61戸が被災し、7名が死亡した。人々は集団移住を余儀なくされ、700年に及ぶ集落の歴史に終止符を打った。今では原野に戻っている。	中川村四徳	2		中川村	昭和36年	1961	三六災害	
1.治水	被災地	A	A013	北川集落跡	大鹿村の鹿塩川沿いにあった北川集落は、1961(昭和36)年6月27日、豪雨による土石流で39戸の民家と北川分校が土砂の下に埋まった。さらに、29日には西山が地すべりを起こし、鹿塩川を一時的に堰き止めた。鹿塩川にかかっていた橋の取り付け部分が流れ、コンクリート部分だけが門のように残る。記念碑も立っている。	大鹿村鹿塩	2		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
1.治水	災害の痕跡	A	A014	夜泣き石	未の満水の際に、野底川上流の山崩れによって川が堰き止められた。その後土砂が一気に決壊し、川幅の数十倍に広がった激流が土石流を発生させた。この土石流によって野底川の上流から松川合流点付近まで全長7mにもおよぶ巨石が運ばれてきた。子どもが下敷きになって亡くなり、子どもの泣き声が聞こえてきたので、供養のために石の上に地蔵を祀ったとされる。	飯田市上郷別府	2		飯田市	江戸時代(正徳5年)	1715	未の満水	
1.治水	災害の痕跡	A	A015	夜泣き地蔵/出砂原の大石	未の満水の際の土石流で、大島川上流から流されてきた大石。高森町市田駅前、ビルの裏側に石垣と挟まれたあまり人目につかない場所にある。受難者を供養するために二基の地蔵がある。石の横を通ると赤ん坊の泣き声が聞こえ、地蔵様を建てたら泣き止んだと言いつづられている。	高森町下市田	2		高森町	江戸時代(正徳5年)	1715	未の満水	
1.治水	災害の痕跡	A	A016	遠山の埋没林	714(和銅7)年の大地震で山が崩れ、遠山川の堰き止め湖に木々が埋没した。現在は、当時の埋没林が河床に露出しており、南信濃大島、畑上などで見ることができる。これらの木のほとんどは、直径50cm以上の大木で、中には直径1m以上の巨木や樹齢700年以上のヒノキもあった。	飯田市南信濃	2		飯田市	飛鳥時代	714	遠山地震	
1.治水	ダム	A	A017	平岡ダム	1951(昭和26)年に竣工した発電用ダム。天竜川流域で戦前に建設・計画されたダムの中では、最大の高さ(62.5m)であり、「暴れ天竜」が作り上げてきた渓谷がそのままダム湖となっている。太平洋戦争の時代に中国・朝鮮半島の人々や敵対する連合国軍の捕虜を強制的に使役して建設した歴史を持つ。	天龍村平岡	3		天龍村	昭和26年	1951	電源開発	
1.治水	弁天・水神等	A	A018	河原弁天(後ろ向き弁天)	弁天橋下流左岸の河原の自然石の上に祀られ、出水規模の目安にされてきた。天竜川通船の盛んだった江戸時代、商いを営む人たちが祀ったと伝えられる。1738(元文3)年の大洪水で村境の争いが起こったとき、大岡越前守忠相が裁許を下した判決は「大岡裁き」と呼ばれている。	飯田市下久堅下虎岩	3		飯田市	江戸時代(元文3年)	1738	水害・土砂災害	
2.利水	用水路	A	A019	西天竜幹線水路 円筒分水工群	西天竜幹線水路から水を分けるために設けられた分水施設群。現在、円筒分水工が35基活用されており、大小の分水を加えると実に83基に上るとされる。2006(平成18)年に土木学会選奨土木遺産に認定された。	辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市	1,3		伊那市、辰野町、箕輪町、南箕輪村	大正8～昭和14	1919～1939	土木工学的な工夫/利水開発	
2.利水	用水路	A	A020	東天竜一貫水路	辰野町平出の天竜川左岸で取水して、辰野町赤羽・樋口地区から箕輪町北小河内地区へ流下している、総延長9,140mの竜東地区で重要な幹線用水路。1927(昭和2)年に用水に取水する頭首工が建設された。頭首工の表面は、自然石を配置し、堤体はカーブしている。東天竜用水路頭首工は日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。	辰野町平出～赤羽～樋口	1,3		辰野町	昭和2年	1927	土木工学的な工夫/利水開発	
2.利水	用水路	A	A021	竜西一貫水路	1969(昭和44)年に竣工。南向発電所(中川村)の放水路から取水し、天竜峡付近に至る。総延長24kmの西天竜一貫水路とほぼ同規模の大用水。これにより、天竜川右岸の扇状地上は、諏訪湖の下流近くから天竜峡に至るまでのほぼ全域が灌漑されることになった。毛賀沢水路橋・胡麻目沢水路橋、田沢水路橋などがある。	飯田市、駒ヶ根市、中川村、松川町、高森町	3		飯田市、駒ヶ根市、中川村、松川町、高森町	昭和44年	1969	利水開発	
2.利水	用水路	A	A022	竜東一貫水路	「県営灌漑排水事業」として建設された一貫水路。小渋ダムから飯田市下久堅まで流れる用水路。1967(昭和42)年着工、1979(昭和54)年に竣工したこの用水路により、既成田407ha、開田141ha、畑地238haの計786haが灌漑されるようになった。灌漑対象地域は、松川町生田、豊丘村、喬木村、飯田市下久堅であり、その受益地域は主に標高450～550mの南北に細長い段丘上である。谷を渡る箇所には虹川水路橋や小川サイフォンを見ることができる。	飯田市、松川町、豊丘村、喬木村、大鹿村	3		飯田市、松川町、豊丘村、喬木村、大鹿村	昭和54年	1979	利水開発	
2.利水	用水路	A	A023	旧深沢川水路橋	西天竜幹線水路事業で深沢川(箕輪町)の谷を越えるために造られた水路橋。1927(昭和2)年完成。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)及び信濃の橋百選に選定されている。現在は町道(車道)として利用されている。	箕輪町中箕輪八乙女	1,3		箕輪町	昭和2年	1927	土木工学的な工夫/利水開発	
2.利水	用水路	A	A024	伝兵衛五井	伊東伝兵衛は三峰川流域を中心に数々の井筋工事を手がけたが、特に黒河内井筋(お鷹岩井筋)、小原井筋、大島二番井、鞠が鼻井筋(伝兵衛井筋)、上伊那井筋(伝兵衛堰)が有名でこれらを伝兵衛五井と呼んでいる。伊東伝兵衛が書き残した図面が伊東家に残されている。	伊那市富県～東春近、辰野町	3		伊那市、辰野町	江戸時代～昭和		利水開発	



■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
2.利水	用水路	A	A025	木曾山用水	塩尻市(旧木曾郡檜川村)の奈良井川の源流白川(しらかわ)より水を取り、中山道奈良井宿から伊那へ通じる権兵衛峠に沿うようにして、北沢川へ流すための延長約12kmに及ぶ水路で1873(明治6)年に完成した。本来、日本海へ流れるはずの奈良井川上流白川の水は、この水路を経て太平洋へ流れることになった。権兵衛峠には分水嶺の碑・古畑権兵衛碑・井筋水榭(奈良井川から北沢川井水を取り入っていた榭)がある。	塩尻市(旧木曾郡檜川村)～伊那市上戸、中条	3		南箕輪村、伊那市、塩尻市	明治6年	1873	利水開発	
2.利水	用水路	A	A026	御子柴艶三郎による井戸	1898(明治31)年、御子柴艶三郎が作った井戸。御子柴艶三郎は私財を投げ打ち、神に命を捧げる約束のもと横井戸を掘り、苦勞の末に水脈を発見。1899(明治32年)12月、約束通り命を絶った。水神宮・碑・穂坂式分水タンクなどが現存する。	伊那市荒井	3		伊那市	明治31年	1898	利水開発	
3.産業	猪垣	A	A027	伊那市諏訪形の猪垣	江戸時代、藤沢川から太田切川に至る標高700mの地域に、イノシシやシカなどの農作物への被害を防ぐために造られた柵。伊那市史跡の猪垣が残り、土手の上に乱杭を連ねた木柵が復元されている。	伊那市西春近	3		伊那市	江戸時代		自然と共生	
4.交流	橋	A	A028	姑射橋	天竜川唯一の景勝地「天龍峡」に架けられた、四代にわたる歴史のある橋。三代目の姑射橋の親柱は、龍江小学校と川路小学校の校門の門柱として保存されている。三六災害時の「天竜川氾濫最高水位の碑」が設置されている。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市龍江～川路	3		飯田市	昭和46年	1971	橋の歴史	昭和61年
4.交流	橋	A	A029	南原橋	天竜川で最初にかげられた定橋。1870(明治3)年に完成した初代の南原橋は、橋脚を使わない「はね橋」構造であった。川幅が30間(54m)と比較的狭いが断崖絶壁の鷲流峡に橋を架ける仕事は容易ではなかった。南原橋右岸川岸にははね木を支えたと思われる穴が開いている。左岸側にある橋場稲荷境内には、1928(昭和3)年に建てられた南原橋の碑がある。	飯田市下久堅南原～駄科	3		飯田市	明治3年	1870	橋の歴史	昭和3年
4.交流	橋	A	A030	北の沢眼鏡橋	田切地形である北の沢川(辰野町)の谷を最短ルートで渡れるよう造られた橋。完成1889(明治22)年。橋台が石積み、アーチ部は煉瓦積みで、その形から「めがね橋」と呼ばれた。2011(平成23)年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	辰野町羽場	1,2,3		辰野町	明治22年	1889	土木工学的な工夫 /田切地形 /橋の歴史	
4.交流	橋	A	A031	坂戸橋	1993(昭和8)年にした優美な鉄筋コンクリートアーチ橋で、建設当時、鉄筋コンクリートアーチ橋としては我が国最大のスパンを誇った。コンクリートでありながら木彫の面取りを採り入れ、柱は上に細くそり立つ。そのデザインは庄巻である。2010(平成22)年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	中川村大草～片桐	1,3		中川村	昭和8年	1993	土木工学的な工夫 /橋の歴史	
4.交流	橋	A	A032	小渋橋	三六災害の際に発生した大西山の大崩壊は、42名の命を奪った。三六災害で一帯が賽の河原と化した中で、変わらぬ姿で架かっていた3連アーチの橋。アーチと桁側面のへこみがしっかりと造られ、コンクリート橋の外観を引き締めている。白銀の赤石岳をバックにしたシルエットが美しい。2011(平成23)年に国の登録有形文化財に登録され、信濃の橋百選に選定されている。	大鹿村大河原	2,3		大鹿村	昭和36年	1961	三六災害 /橋の歴史	
4.交流	橋	A	A033	びったら橋	江戸時代末期まで、諏訪湖の排水を妨げるような橋を架設することができなかったことから、川の中に石を置き、その上に板を渡して渡った。板が安定するように石の上に平らなくぼみを彫り、増水時、板が浮いても流れないように、綱を石の穴に通して結んだ。通行人が歩くと、橋板がたわんで川面を「びたびた」と打つため、「びったら橋」といわれたという。	岡谷市御倉町	3		岡谷市	江戸時代末期まで使用		橋の歴史	
4.交流	港・船着場	A	A034	入舟船着場	江戸時代から船着場として利用された場所。明治になって通船が盛んになり、運行も多行われた。明治30年代になると、坂下と時又間の定期通船も始まった。大橋のたもとにあり、弁財天宮の脇に、1971(昭和46)年建立の史跡標柱が残されている。	伊那市坂下	3		伊那市	江戸時代		通運の歴史	昭和46年建立
4.交流	港・船着場	A	A035	時又港	通船の最盛期を迎えた明治の終わりから昭和の初めにかけて、伊那谷と遠州地方をつなぐ重要な水の道として栄えた。その後、各所に設けられた発電ダムにより水の道は分断されて終焉し、今は、観光遊船が行われているだけとなった。	飯田市時又	3		飯田市	明治・大正		通運の歴史	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
5.風土	地形	A	A037	千畳敷カール	日本で唯一、山の麓から見えるカール。氷河時代には千畳敷は一年中氷に閉ざされ、氷が谷沿いに流れていた。カールはそのときの氷河によって作られた地形。カールの先端には氷河によって押し出された石や土が固まってできたモレーンとよばれる巨大な丘がある。カール壁ではしばしば雪崩が起きるが、モレーンの上部では雪崩が起きる心配がないため標高2,612mにあるロープウェイの終着駅はモレーンの上に作られている。	駒ヶ根市赤穂、宮田村	2		駒ヶ根市、宮田村			地球活動の痕跡	
5.風土	地形	A	A038	田切地形／田切地形のビューポイント	天竜川の河岸段丘や断層崖を横断するように、太田切川、中田切川及び与田切川などが流れ、段丘面を激しく浸食して形成された伊那谷特有の地形。また、田切地形を一望することができるビューポイントとして、陣馬形キャンプ場が挙げられる。	宮田村、駒ヶ根市、飯島町／中川村大草(陣馬形キャンプ場)	2		宮田村、駒ヶ根市、飯島町			田切地形／地球活動の痕跡	
1.治水	堤防	A	A039	霞堤	堤防の一部を切り、下流側の堤防を田んぼや村のある方へ斜め上流に延ばし、ある程度の長さによって上流からの堤防と並行するようにするようにしたもの。洪水の一部を氾濫源に逆流するように導き、堤防の決壊を防ぐとともに洪水を調節する効果がある。	伊那市美篁	3		伊那市			水害・土砂災害	
4.交流	街道	A	A040	伊那街道(三州街道)	伊那街道は、中馬で荷駄を運ぶ通商の道として、江戸時代は盛んに利用された道。別名三州街道とも呼ばれ 中山道塩尻宿から分岐し、辰野、伊那、駒ヶ根、飯田と南下し、浪合、平谷、根羽の各村、柚路峠を経て三河足助を経由し岡崎で東海道を合流する。現在の国道153号線は、ほぼこの道筋をたどっている。浪合には復元された関所跡がある。	辰野町～根羽村	3		辰野町、箕輪町、南箕輪村、伊那市、宮田村、駒ヶ根市、飯島町、中川村、松川町、高森町、飯田市、阿智村、平谷村、根羽村	江戸時代		中馬の歴史	
1.治水	ダム	A	A041	泰阜ダム	1935(昭和10)年に竣工した天竜川流域では最も古い歴史を持つ発電用ダム。日本の近代土木遺産(現存する重要な土木構造物2800選)に選定されている。	泰阜村～阿南町	1,3		泰阜村	昭和10年	1935	土木工学的な工夫/電源開発	
1.治水	堤防	A	A042	惣兵衛堤防	飯田藩は現在の明神橋下流の場所に堤防を造る計画を立て、当時75歳の中村惣兵衛を工事長に任命して工事を開始した。1752(宝暦2)年に完成。大川除堤防、惣兵衛川除とも呼ばれる。出水ごとに補強工事がほどこされ、明治以後、上流下流に数条の堤防も新設された。市田・座光寺・上郷の沿岸低地は、市田田圃と言われる米の産地となった。しかし、1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防は破堤した。1854(安政元)年、「惣兵衛翁供養塔」が建立された。	高森町下市田	3		高森町	江戸時代(宝暦2年)	1752	水害・土砂災害	
4.交流	橋	A	A043	大橋	古くは通船の船着き場であった場所。今昔とも往來の要衝にあるこの橋は、近隣では大きさも際立っていたことから、自然に「大橋」の名が定着したようで、現在もそれが正式名称となっている。この橋の記録は、織田軍の侵攻(1582(天正10)年)の記述がある『下条記』に「伊那部前之橋」とあるのを筆頭に、『信濃国絵図』(1647(正保4)年)や絵巻『高藩探勝』(1743(寛保3)年)にも描かれるなど、古くから記録が残っている。長い期間「木橋」だったが、1933(昭和8)年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市中央～坂下	3		伊那市	昭和8年	1933	橋の歴史	昭和48年
5.風土	祭事	A	A044	さんよりこより	美篁と、富県桜井の天伯様に伝わる七夕祭りで、毎年8月7日に行われる。七夕の神事。三峰川の洪水を鎮める目的。伝承によれば、室町時代の中期、1427(応永34)年、藤沢片倉(現高遠)に居られた天伯様が洪水によって富県桜井に流れ着き、その後再び洪水によって美篁川手に流れ着いた。これを縁として、桜井と川手に天伯様をお祀りしたのがはじまりとされ、足利時代の1472(文明4)年から続いていと云われている。	伊那市美篁、富県	3		伊那市	室町時代(文明4年から)	1472	自然と共生	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
5.風土	祭事	A	A045	遠山の霜月祭	湯立神事で古代に宮廷で行われていた祭事が伝承されていると言われている。1979(昭和54)年には霜月祭りが国重要無形民俗文化財の指定を受けた。上村と南信濃に伝わる湯立て神楽。12月上旬から翌年1月上旬までの1カ月間に両村合わせて13の神社で行われている。神事の中心は水にかかわる湯立であり、神事全体を通じて防災意識が見られる。	飯田市上村・南信濃	3		飯田市	平安時代(貞観年中)		自然と共生	
2.利水	ため池	A	A046	松川プール	飯田市中心部は台地上に立地し、生活用水の確保が大きな課題であった。そのためプールなどに使える水はなく、周辺の河川やため池で水泳をしていたが、1925(大正14)年、鼎村の本田(ほんだ)亥(い)太郎(たろう)が私有地を提供し、松川の水を引き入れた「松川プール」を建設した。松川プールは周辺の学童・生徒や多くの住民に利用され、水泳大会が開かれたほか、プールサイドに植えられた桜が花見の名所にもなるなど、飯田市郊外の身近な行楽地であった。その後、水質の問題や設備が充実したプールの要望が高まり、1960(昭和35)年、飯田市民プール建設に伴い、しだいにその役割を終えた。現在、松川プールは池になり、敷地はプライダル施設、周辺は桜の名所となっている。	飯田市鼎	3		飯田市	大正14年	1925	利水開発	
4.交流	鉄道	A	A047	三信鉄道	JR飯田線の「天竜峡～三河川合(約70km)」区間で、1937(昭和12)年に全線開通した。天竜川の険しい地形と中央構造線のもろい地質に阻まれ、日本の鉄道史に残る難工事となった。泰阜ダムや平岡ダムの建設資材の運搬などにも大きな効力を発揮した。北海道の多くの鉄道で測量技士を勤めた川村カ子トがアイヌ測量隊を率いて断崖絶壁での測量作業をやり遂げ、難工事の末に完成させたとの逸話もある。工事には朝鮮人労働者も多く従事していた。三信鉄道為栗駅の北西には、信濃の橋百選に選定されている万古川橋梁がある。	新城市川合～飯田市川路天竜峡	1,3		飯田市、泰阜村、天龍村	昭和12年	1937	土木工学的な工夫/電源開発	
1.治水	堤防	A	A048	伴野堤防	天竜川を挟んで対岸の惣兵衛堤防からの水はねによる激流によって度々大災害を被ったことを契機として、惣兵衛堤防完成より57年後の1809(文化6)年に完成した。1828(文政11)年の大出水でほとんどが流失。その後も建設と修復が繰り返された。1883(明治16)年、松尾千振は伴野村有志による「開墾組」を組織し、堤防建設を進めた。その後も、堤防補強・修理が行われ、1904(明治37)年に一応完成したが、1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、壊滅的に破壊された。昔の伴野公園に千振と開墾組の石碑がある。	豊丘村神稲	3		豊丘村	江戸時代	1831	水害・土砂災害	
1.治水	堤防	A	A049	座光寺石川除	天竜川を挟んで対岸の伴野堤防によりはね返された激流は対岸の座光寺村めがけて直進していき、座光寺石川除を造る契機となった。伴野堤防完成より22年後の1831(天保2)年に完成した。1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防と伴野堤防は破堤したが、座光寺石川除の保存状態は極めて良い。現在は市道の道路端、耕地の真ん中に位置している。村で建設資金を集めて1831年に完成させた堤防で、1835年には約76mに渡り崩れ、現在残っているのは1868(明治元)年のもの。	飯田市座光寺	3		飯田市	江戸時代	1831	水害・土砂災害	
1.治水	堤防	A	A050	お志茂の水よけ	古くは前沢川の川筋と考えられる。松村家(屋号お志茂・松村理兵衛の分家)では水害から屋敷を守り、また下流側にある地域の田畑を守るため、上流側に向けて鋭角に船形の石積みの堤防を築いた。理兵衛堤防の西250mの位置にある。	中川村片桐	3		中川村	江戸時代		水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A	A051	日向澤砂防堰堤	1933(昭和8年)、飯島町七久保日向澤に砂防堰堤が建設された。景観や強度への配慮から間知石積ではなく野面石積とした堰堤。また法切、基礎工事にも工夫を施した。本事業は農民を労働者として雇用して救済する「農救事業」により行われた。間知石積:工業規格で規定された大きさに加工した角錐形の石材を用いた石積 野面石積:自然石を用いて、石肌の風合いを活かし、面をそろえた石積	飯島町七久保	1		飯島町	昭和8年		水害・土砂災害	
1.治水	砂防施設	A	A052	七釜砂防堰堤	仏像構造線の位置につくられた砂防堰堤。荒川大崩壊地から流出する土砂を調節するため高さ28mの砂防ダムが1984(昭和59)年に完成した。基礎岩盤が深いため堰堤の基礎処理として簡易ケーソン工法を使用している。この工法の堰堤は全国的に珍しい。	大鹿村大河原	1		小渋川	昭和59年	1984	水害・土砂災害	
1.治水	崩壊地	A	A053	茶臼ナギ	小渋川上流上沢に位置する前茶臼山東側に広がる崩壊地。前茶臼山断層に関連して、崩壊が生じている。地質的には秩父中古生層のチャート・砂岩・泥岩の互層により構成されており、1898(明治31)年及び1929(昭和4)年に大災害が発生したとされている。一般的に地質的なもろさから中央構造線沿いの山岳地帯は崩壊地が多いとされているが、これに加えて、1600年以来約150年も樽木の原木であるサワラを伐採したり、モミ・ツガ類を大量に伐採したことも不安定さを増す要因となったとする説がある。	大鹿村	2		大鹿村			地球活動の痕跡	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
1.治水	崩壊地	A	A054	荒川大崩壊地	大鹿村広河原に位置する荒川大崩壊地では、豪雨に伴い、これまでも継続的に崩壊が発生している。崩壊した土砂の大半は、一旦溪流に堆積し、その後の豪雨により土石流化して下流へと流下する場合が多いと考えられている。	大鹿村	2		大鹿村	1743～1760		地球活動の痕跡	
1.治水	ダム	A	A055	美和ダム	1959(昭和34)年に竣工。三峰川に建設された高さ69.1mの重力式コンクリートダム。洪水調節・灌漑・水力発電を目的とする、国土交通省直轄の多目的ダム(特定多目的ダム)。近年、土砂堆積が進み、現在は堆砂率200%にもなっているという。このため、上流から流れてくる土砂をダム湖に貯めず、下流に流すバイパストンネル工事が行われている。	伊那市長谷	1		伊那市	昭和34年	1959	土木工学的な工夫	
1.治水	ダム	A	A056	小渋ダム	1969(昭和44)年に竣工。小渋川に建設された高さ105mのアーチ式コンクリートダム。洪水調節・不特定利水による天竜川の治水のほか、下伊那郡の農地へのかんがいと水力発電を目的とする国土交通省直轄の多目的ダム。堤体の厚みが、他のアーチ式コンクリートダムより薄い事が特徴。その薄さにもかかわらず、漏水量が非常に少なく、良い施工だった事がうかがえる。美和ダムに匹敵するほどの流域面積を持ち、美和ダムと共に、天竜川の治水の要となるダム。	松川町生田	1		松川町	昭和44年	1969	土木工学的な工夫	
2.利水	用水路	A	A057	太田切川の井筋	駒ヶ根市や宮田村は太田切川の扇状地上にあり、太田切川は農地や集落のある場所より低い崖下を流れていたため簡単に水が引けず、農業用水や生活用水の確保に苦労していた。そこで人々は谷の出口から取水することを考え、用水路が開削された。太田切川の井筋は上流から①黒川井(宮田井ともいう)、②「上の井」、③「下の井」、④丸山井、最下流に⑤下平井の五用水があった。太田切川左岸の宮田七箇村は①と④の水利権を、右岸の駒ヶ根市は②③⑤の水利権を持っていた。「上の井」は木曾山脈山麓をほぼ等高線沿いに流れるので、別名「横井」とも呼ばれている。	駒ヶ根市、宮田村	3		駒ヶ根市	江戸時代(宝暦5年)	1755	田切地形/利水開発	
2.利水	用水路	A	A058	西天竜幹線水路 流末の階段工(小沢のそろばん滝)	西天竜幹線水路を小沢川へ落とすための階段工。困難な工事の末、完成した。その後、用水の落差を活用した発電所を小沢川沿いに設置することとなり、発電所は昭和36年に完成した。水路の水は導水管により発電所に入ることとなり、それ以来、階段工は使われなくなった。諏訪湖から流れてくるウナギやワカサギがときどき採れたため、近所の子どもたちは楽しみにしていた。	伊那市小沢	3		伊那市			利水開発	
2.利水	用水路	A	A059	恩田井水	水不足に苦労した阿智村の伍和(ごか)地区に水を運んでいる用水。大変険しく崩壊しやすい花崗岩地帯の山中を山越え谷越えして造られている。伍和地区が水利権を売る形で、下條村親田地区にもつなげており、この収入で用水の維持管理をしている。	阿智村	3		阿智村	明治31年	1898	田切地形/利水開発	
2.利水	ため池	A	A060	千人塚公園 城ヶ池	戦国時代に山城があったが、織田軍の侵攻により落城し、その際になくなった兵士やその武具などがこの場所に埋没された。そこから「千人塚」と呼ばれる。城ヶ池はもとは城の空堀だったが、昭和初期に水を引いて灌漑用の温水ため池にした。池の築造は、当時政府が国内ですすめていた農村経済厚生事業により展開されたものである。2010(平成22)年ため池百選に選定された。	飯島町七久保	3		飯島町	江戸時代(安永年間)	1772～1780	田切地形/利水開発	平成5年
3.産業	森林鉄道	A	A061	三峰川の森林鉄道跡	1941(昭和16)年に部分開通し、最盛期には杉島～北荒川まで23.6kmが整備されていた森林鉄道。三六災害で流失し、現在は林道が整備されている。	伊那市	3		伊那市	昭和16年	1941	森林鉄道の歴史	
3.産業	森林鉄道	A	A062	遠山の森林鉄道 梨元貯木場	1944(昭和19)年から1968(昭和43)年まで、木材を運び出す手段として使われていた鉄道。梨元には貯木場が設けられていた。「夢をつなごう遠山森林鉄道の会」ができ、2012(平成24)年11月18日には「梨元いしゃば」に復元したレールに機関車を走らせた。	飯田市南信濃	3		飯田市	昭和19～43年	1944～1968	森林鉄道の歴史	
3.産業	発電所	A	A063	小黒発電所	伊那谷で一番古い発電所。1913(大正2)年に完成し、伊那電気鉄道等、上伊那地域の発展に大きく寄与した。現在は機械の取替えにより1100キロワットの発電ができるようになった。1913(大正2)年に小学校の集団登山で11名の遭難者を出した事件を題材にした新田次郎の小説「聖職の碑」にある「内の萱発電所」はこの小黒発電所のことである。	伊那市伊那	1		伊那市	明治44年	1911	電源開発	
3.産業	発電所	A	A064	大久保発電所	下流にある南向発電所の建設用として、1926(大正15)年11月から1927(昭和2)年9月にかけて、天竜川電力株式会社がわずか10か月間で建設した。特徴は、4台の水車が水槽の中に入っていて、落差が5.7mと低い全国でも珍しい発電所。南向発電所建設以後は発電した1500キロワットの電気を、上伊那地区の家庭と工場に送っている。	駒ヶ根市東伊那	1		駒ヶ根市	昭和2年	1927	電源開発	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)	
4.交流	橋	A	A065	虹橋	1958(昭和33)年に完成した高速ダムから取水する灌漑水路。三峰川右岸の農業を支えた水路橋で、アーチ型をしていることから「虹橋」と呼ばれる。管理道は地域住民が歩道として利用している。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市高遠町～美篤	1		伊那市	昭和33年	1958	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A066	めがね橋(長姫橋)	1878(明治11)年、アーチ型の石橋が完成。石材と埋め立ての土砂には、明治維新で解体された飯田城の石垣の石と真砂が使われた。この時、飯田城の古名を残すために「長姫橋」と改称されたが、市民からはその形状から「めがね橋」と通称された。1947(昭和22)年4月の大火後、上流側の谷は埋められ公園化。橋の石製の欄干も鋼鉄製に取り替えられた。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市伝馬町～銀座	1		飯田市	明治11年	1878	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A067	伊那路橋	江戸中期には架設され伊那谷と江戸を結び中馬輸送を支えた街道の橋。現在の橋は1994(平成6)年に架け替えられた。当時の橋は「大橋」と呼ばれており、掛かる費用を幕府が負担する「主要街道の橋」と位置づけられていた。信濃の橋百選に選定されている。	箕輪町東箕輪～中箕輪	1		箕輪町	昭和8年	1933	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A068	北の城橋	この場所は、たびたび水害に遭うため渡船が常用されていたが、すぐ下流に大久保発電所が完成したことを受け、造られた吊り橋。伊那市と宮田方面を結ぶ生活道路として欠かせない存在。信濃の橋百選に選定されている。	宮田村、駒ヶ根市	1		宮田村、駒ヶ根市	昭和2年	1927	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A069	中之橋	我が国最初期の「鉄筋コンクリート製カンチレバー桁橋」の一つで、県内では2番目に古い。阿知川の洪水に耐えうる永久橋として建設された。信濃の橋百選に選定されているが、架け替えが予定されている。	阿智村駒場	1		阿智村	昭和7年	1932	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A070	南宮大橋	古くは渡船場があったが、1897(明治30)年に左岸の温田地区と右岸の御供地区が私設有料橋として中州(中ノ島)を境に木橋と吊り橋を架けた。戦後は県が管理した。現在の斜張橋は災害で冠水した教訓などから、高い位置へ架け直されている。信濃の橋百選に選定されている。	泰阜村、阿南町	1		泰阜村、阿南町	平成7年	1995	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A071	天竜橋	長野県が管理する唯一の吊り橋。秘境の無人駅、JR飯田線為栗駅に通じるだけの歩行者専用の吊り橋だが、同駅前が県道為栗和合線の起点であるため、駅前まで車は入れないが県道である。信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島	1		天龍村	昭和9年	1934	橋の歴史		
4.交流	橋	A	A072	羽衣崎橋	天竜川の名勝「羽衣崎」は、平岡ダム湖の湖面となる地にあり、山紫水明の渓谷の自然美と調和したニールセンローゼ形式が採用されている。平岡ダム湖岸道路開設事業として1974(昭和49)年に完成。県最南端地域の生活を支える重要な道にある。信濃の橋百選に選定されている。	天龍村平岡～長島	1		天龍村	昭和49年	1974年	橋の歴史		
4.交流	峠	A	A073	牛首峠	標高1072m。辰野町小野の西、飯沼の村はずれの小さな鞍部で、太平洋と日本海両水系の分水嶺となっている。伊那谷北部から木曾への唯一の道で、桜沢道と呼ばれ近世後半には高遠領から贅川宿の米問屋へ、年貢米が馬一頭にて二俵付けて盛んに運ばれたり、木曾助郷の人馬の通り道であった。	辰野町	3		辰野町				峠の歴史	
4.交流	峠	A	A074	地藏峠	大鹿村の青木川と上村の分水嶺となっており、古くから秋葉街道の中の難所。標高1314m。古くは「遠山峠」とも呼んだ。名前の由来の地藏は、元々峠の南にある「堂屋敷」地籍に安置されていて、四基あった内の二基を大正時代頃に相次いで移転したものだ。	大鹿村、飯田市	3		大鹿村、飯田市				峠の歴史	
4.交流	峠	A	A075	善知鳥峠	標高889m。太平洋側の伊那谷と、日本海側の松本平の分水界になっており、峠には分水嶺の碑もある。江戸時代から明治の初期までは、中馬の発着点の松本と飯田を結ぶ伊那街道の峠として人馬の往来で賑わった。馬の供養や安全祈願のために建てられた石の馬頭観音が、峠から北小野にかけての街道沿いに非常に多い。	塩尻市	3		塩尻市				峠の歴史	
5.風土	祭事	A	A076	雪祭	新野(にいの)の雪まつりは、雪を稲穂の花にみたくて、大雪(豊年)を願うまつり。雪は水の源で農業に欠くことができない。伊豆神社境内で行われ、田楽・舞楽・神楽・猿楽、田遊びなどの日本の芸能絵巻が徹夜で繰り広げられる。1977(昭和52)年、国重要無形民俗文化財に指定されている。	阿南町新野	3		阿南町				自然と共生	

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクA】

：ランクAへの新規追加事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
5.風土	祭事	A	A077	天龍村の霜月神楽	毎年正月の1月3日から5日にかけて、向方地区(お潔め祭)、坂部地区(冬祭)、大河内地区(例祭)で行われる冬祭り。いずれのお祭りもかまどを築いて湯をたぎらせ、それを神々に献じてから人々にも振りかけて魂をきよめ、同時に神歌をうたい、あるいは舞を奏するという湯立神楽の形式をとどめており、祭り全体から水の神聖さが伝わる。1978(昭和53)年、国重要無形民俗文化財に指定されている。3地区のうち坂部は、仮面の舞等豊富な内容をもっている。	天龍村坂部	3		天龍村			自然と共生	
4.交流	峠	A	A078	大平峠	飯田市と南木曾町の境にある峠である。大平街道は伊那と木曾、両方の谷を最短距離で結ぶ街道で、大平峠と飯田峠の二つの峠がある。この道は16世紀後半から活用され、明治・大正には大平宿として隆盛した。峠からの眺めは東方が開けているので松川の溪谷・風越山から飯田市街・伊那山脈・赤石山脈が一望できすばらしい景観である。大平集落は集団移住し、大平宿の面影はないが、「大平を守る会」が活動している。近くに県民の森があり、遊歩道も整備されている。	飯田市	3		飯田市			峠の歴史	
5.風土	地形	A	A079	深見池	深見池は最大深度8.5m、周囲700mの天然の湖。1662(寛文2)年の大地震の時に発生した、大きな地すべりの窪地に水がたまってできた。周囲が丘に囲まれていて風による水のかきまぜが少ないため、夏期には水面下4mより深い層には酸素がとどかず、硫化水素を含むようになる。水中の硫酸イオンの量の多い火山・汽水地域でもないのに、夏期の光合成硫黄細菌層の発達するのは大変珍しく、国際学会でも発表されたことから、「LAKE FUKAMI IKE」として国際的にも著名になった。	阿南町東條	2		阿南町			地球活動の痕跡	
1.治水	災害の伝承	A	A080	濁流の子～伊那谷災害の歴史(出版物)	災害をまのあたりにした小学生、中学生、高校生らの作文を集めたもので、200ページもの文集をガリ版の原紙切りから印刷まで、碓田榮一さんがほとんど独力で1964(昭和39)年に発行した出版物。文集は当時の学童、生徒自身の言葉で災害の恐ろしさ、友人を失った悲しみ、災害で家や田畑を失った状態での不安な高校受験、見知らぬ人々からの励まし、復興の様子などが語られている。	駒ヶ根市中沢	2					三六災害	



■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
1.治水	堤防	B	B002	見通し桜	「まほら伊那 いいとこ百選」にも選ばれた、天竜川の毛見橋近くにある桜の樹。天竜川対岸、西町区伊那部の『伯先桜』と対になり、洪水でしばしば川筋を大きく変化させ、時には家も田畑も流してしまう『暴れ天竜』の測量起点として伯先桜と『見通し』をした桜。現在は古木の根本から若樹が育ち、標柱が立てられている。	伊那市	2		伊那市				
1.治水	堤防	B	B003	柵立堤防(尺立堤防)	洪水の惨状から美田を守るため、この地に柵立堤防を築いた。坂本天山がつくったものは流れ、現在のものは1902(明治35)年につくられたもの。天竜川の水を防ぐために柵を製造して水から耕地や家屋を守ったことに由来する。	伊那市	1		伊那市	江戸時代			明治35年
1.治水	堤防	B	B004	太田切川の川除林	1691(元禄4)年、天竜川合流点から太田切川上流の下平村まで長さ700間(1,260m)、幅100間(180m)の川除林を作った。1971(昭和46)年時点で、太田切川右岸の川除林はほとんど消滅し、西駒郷の駒ヶ根県立病院付近に松林が残っているだけである。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	江戸時代(元禄4年)	1691		
1.治水	堤防	B	B007	鉄砲島の堤防	1897(明治30)年に完成した箕輪町松島の鉄砲島の堤防・大出の堤防はよく氾濫に耐えてきて、大出下には一部当時のままで残っていたが、平成24年11月現在、堤の跡はなく、草が生い茂っている。近くに「北島災害伝承之碑」がある。	箕輪町大出	1		箕輪町	明治30年	1897		
1.治水	堤防	B	B009	上亀甲石(天伯森)・下亀甲石	惣兵衛堤防の近くにある。下の亀甲石:土地の境界・距離などを測る基点となる石で、大川除堤防の位置を決定している。上の亀甲石:取り入れ口付近の位置を決定する標識となったもの。天伯森:天白様を祀る小祠があったが、天伯森は明治に切り払われ、天伯祠の所在も不明である。	高森町	1		高森町	江戸時代(寛延3年)	1750		
1.治水	堤防	B	B011	弁天様の川除	1721(享保6)年、47軒あった町並みのうち29軒が水害のために流失した。このために町頭にあった波合(浪合)関所が深沢地籍に移転され、同年8月にこの地に水難鎮静を祈願して弁財尊天が祀られた。以後弁天の森として親しまれている。波合川の幾度にも渡る氾濫によって大きな被害を受けた。水害のたびごとに川除も流失したため川除の普請もその都度続けられ、現在残っているのは高さ4m、幅7.2m、長さ50mの石積で天保年間に普請されたものである。山道を登った奥に伊那街道の関所跡が復元されている。歩道もきれいに整備されている。	阿智村	1		阿智村	江戸時代(享保6年)	1721		
1.治水	砂防施設	B	B012	孤立砂防堰堤群	三六災害貯砂を目的とするより、河床の堆積土砂の扞止に重点をおいて三峰川支川菰立沢に設置された5基の堰堤群。	伊那市	1		伊那市	昭和36年	1961		
1.治水	砂防施設	B	B013	大西砂防堰堤	小渋川支川青木川に建設された砂防堰堤	大鹿村	1		大鹿村				
1.治水	砂防施設	B	B014	御所平砂防堰堤	大鹿村大河原(小河内沢川)にある砂防堰堤。	大鹿村	1		大鹿村				
1.治水	砂防施設	B	B015	矢立木砂防堰堤	小渋川支流鹿塩川にある木製の砂防堰堤。	大鹿村	1		大鹿村				
1.治水	災害の痕跡	B	B017	一夜扇状地	飯田市の南沢周辺では、三六災害時に土石流が発生し、一夜にして扇状地ができた。	飯田市	2		飯田市	昭和36年	1961		
1.治水	被災地	B	B018	大火復興後の都市計画	1947(昭和22)年4月の大火で市街の8割以上が焼失し、昔ながらの街並みは西北端の箕瀬町あたりのみとなった。大火復興後は都市計画が進められた。幹線道路が走り、下水道施設が充実されて小都市における全国的なモデルになっている。	飯田市	2		飯田市	昭和22年	1947		
1.治水	崩壊地	B	B019	烏帽子岳のナギ	小河内沢の崩壊地。	大鹿村	2		大鹿村				

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
1.治水	碑など	B	B022	波切り不道明王像	三峰川にかかる常盤橋のたもとの上流側にある。三峰川沿岸は梅雨に台風、いつも洪水におののいてきた。水の脅威を鎮めてもらおうと不動明王に登場願った。守屋貞治(1765-1832)作で傑作と評価は高い。	伊那市高遠町	3		伊那市	江戸時代			
1.治水	碑など	B	B023	修堤記念碑	1890(明治23)年に組合が設けられ、官民協力20余年の大工事で数百間の堤防を築いた記念の碑。法音寺入口にある。	伊那市西春近	2		伊那市	明治23年	1890		
1.治水	碑など	B	B024	菅沼堤防の碑	1896(明治29)年6月の大水害で百間の大土手の中央が決壊し被害が出た。翌1897(明治30)年7月、築堤延長200間、根留沈床200間、面坪800坪、工費8,598円で。碑の裏には「菅沼堤防は後世に計り知れない恩恵を遺した。」と記されている。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	明治30年	1897		
1.治水	碑など	B	B025	奥山半僧坊大権現	太田切川あるいは天竜川の洪水をよけるために建てられた碑。北村秀男氏宅の裏に何基もの石碑があり、その中の一つ。太田切川や天竜川の川抜け防止や水難防除を祈願して建てられたもの。北村家の北側の東西の道の脇には昔それを防ぐ堤防があったという。	駒ヶ根市下平垣外	3		駒ヶ根市				
1.治水	碑など	B	B026	徳本和尚の「南無阿弥陀仏」の碑	野底川沿いの飯田市上郷町別府の辻にある碑。未の満水で多くの人が亡くなり、百数十年後、徳本和尚が亡くなった人を弔った。	飯田市上郷町	2		飯田市	江戸時代 正徳5年	1715		
1.治水	碑など	B	B027	三六災復旧記念碑	三六災害からの復興を記念して大宮八幡宮の境内に建立された。	飯田市龍江	2		飯田市	昭和36年	1961		
1.治水	碑など	B	B028	九頭竜像	飯田市上郷飯沼北条の御岳神社にある九頭竜の精巧な彫刻。御岳神社は木下睦美氏所有で同家南にある。規模は小さいが御岳様中心に石仏類が並び、幕末～明治ころの信仰の盛大さを偲ばせる。「日本石仏図鑑」に水神の例として載るなど、その精巧さが注目されている。	飯田市上郷	3		飯田市				
1.治水	碑など	B	B029	弁天引堤記念碑	飯田松川の右岸から弁天橋を経て清水にかける松尾堤防を記念して建立。	飯田市松尾	1		飯田市				
1.治水	碑など	B	B030	北島災害伝承之碑	2006(平成18)年7月に箕輪町内で発生した豪雨災害を伝承するための碑。回りはあずま屋、ベンチなどが置かれ整備されている。近くに「鉄砲島の堤防」があったと思われる。	箕輪町大出	2		箕輪町	平成18年	2006		
1.治水	碑など	B	B031	隅之木の碑	未の満水の際、与田切川が氾濫して家屋が流され、住民は周囲約6mの俗称「隅之木」と呼ばれる栗の木に集まり災害を免れた。この木の恩を後世に伝えるために建てた石碑。	飯島町本郷	2		飯島町	江戸時代 正徳5年	1715		
1.治水	碑など	B	B033	水難慰霊碑	水死慰霊塔。下條村大久保の唐笠の渡を見下ろす場所にある。	下條村大久保	2		下條村				
1.治水	碑など	B	B034	水難慰霊碑	水死合霊塔:阿南町川田の高台の道路沿いにある碑。1863(文久3)年建立。水天宮:阿南町川田。1866(慶応2)年建立。	阿南町川田	2		阿南町	江戸時代 (文久3年)	1863		水天宮は江戸時代(慶応2年)
1.治水	弁天・水神等	B	B035	戸隠大神・天伯大神・諏訪大神	水神様の役割を期待したと推察。戸隠大神は、九頭竜権現を有した治水の神。建立は1899(明治32)年。	伊那市美篤	3		伊那市	明治32年	1899		
1.治水	弁天・水神等	B	B036	水神様	水神関係の碑は、まず飲用水や灌漑用の安全と確保から、次に水難防止の願い、さらに水難犠牲者の供養のためなどから祀られており、飯田松川沿岸には特にこれらの碑が多い。	飯田市	3		飯田市				
1.治水	弁天・水神等	B	B037	大石(刻銘石)・水神様	沢川と道路が交差する空き地にひっそりと、上下に分割された大石(刻銘石)が設置されている。1835(天保6)年のこの大石と並んで1926(昭和元)年建立の水神様も建立されている。二つに割られた大石は上下に重ねてあり、上部の石には「二つの内」、下部の石には「天保六年未年正月寄之」と刻まれている。付近の水田を守るために護岸用に配置されたもの。	箕輪町	3		箕輪町	江戸時代 (天保6年)	1835		
1.治水	ダム	B	B040	高遠ダム	美和ダムの下流に位置する、高さ30.9mの重力式コンクリートダム。灌漑と水力発電を目的とする、長野県営の多目的ダム。灌漑用水においては上流の美和ダムと連携をして供給している。	伊那市	1		伊那市	昭和33年	1958		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)	
1.治水	ダム	B	B041	松川ダム	1986(昭和61)年に竣工。横川川に建設されたダム。高さ41mの重力式コンクリートダムで、洪水調節・不特定利水を目的とする治水ダム。天端を覆いつくすように設置された、18門並んだ非常用洪水吐は圧巻。	飯田市	1		飯田市	昭和50年	1975			
1.治水	ダム	B	B042	横川ダム	1986(昭和61)年に竣工。横川川に建設されたダム。高さ41mの重力式コンクリートダムで、洪水調節・不特定利水を目的とする治水ダム。天端を覆いつくすように設置された、18門並んだ非常用洪水吐は圧巻。	辰野町	1		辰野町	昭和61年	1986			
1.治水	ダム	B	B043	箕輪ダム	1992(平成4)年に竣工。沢川に建設された治水及び水道用水を目的とした多目的ダム。ダム湖周辺に1万本のみみじが植栽されたことにより、「もみじ湖」と命名され紅葉の時期には賑わいを見せている。	箕輪町	1		箕輪町	平成2年	1990			
1.治水	ダム	B	B044	大久保ダム	1927(昭和2)年に竣工。中部電力による発電用ダム。大久保えん堤(おおくぼえんてい、大久保堰堤)ともいう。高さ3,488mの重力式コンクリートダム(堰)ダム。同社の水力発電所・大久保発電所に送水し、最大1,500キロワットの電力を発生する。	宮田村	1		宮田村	昭和2年	1927			
1.治水	ダム	B	B045	岩倉ダム	1936(昭和11)年に竣工。岩倉川に建設されたダム。中部電力の発電用で高さ25mの重力式コンクリートダム。同社の水力発電所・豊(ゆたか)発電所に送水し、最大1万4,500kwの電力を発生する。	売木村	1		売木村	昭和11年	1936			
1.治水	ダム	B	B047	片桐ダム	1989(平成元)年に竣工。片桐松川に建設された高さ59.2mの重力式コンクリートダムで、洪水調節・不特定利水・上水道を目的とする、長野県営の多目的ダム(補助多目的ダム)。	松川町	1		松川町	平成元年	1989			
1.治水	地名	B	B049	押出道標	1718(享保3)年に大地震で出山が遠山川に押し出し、川をせき止めたことによる地名。	飯田市	2		飯田市	享保3年	1718			
1.治水	その他	B	B050	烏帽子石(うぼうし石)	飯田市川路姑射橋下流にある岩。昔、仙人が宴をして酒に酔ってしまい、烏帽子を忘れていった後にできた岩と言われる。洪水の時の出水規模の目安とされてきた。	飯田市川路	3		飯田市					
1.治水	その他	B	B051	上穂沢川橋礎石(ウブサワガワバシソセキ)	伊那街道の橋場跡であり、如来寺の北側にある。旧伊那街道上穂沢川橋の橋脚に用いられた礎石。この礎石を使用した橋の築造年代は不明だが、伊那街道は中山道の脇往還として1649(慶安2)年に設けられている。この礎石は、1887(明治20)年に三州街道(現国道)が西に開設されるまでの、伊那街道の道筋を今日に伝えるとともに、往時の橋梁構造を知る上からも貴重な資料である。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	江戸時代(慶安2年)	1649		明治20年	
1.治水	その他	B	B052	太田切川橋場礎石	春日街道太田切橋場跡。1968(昭和43)年2月、河川工事実施中に河川のほぼ中央砂礫・岩石中より、橋脚の礎石1個を発見。この礎石によって春日街道太田切橋場跡が明確になった。礎石は河床に埋没している巨石を利用したもので、約高さ3m、幅4.5m、頂きに深さ13cm、径35cmの柱穴が穿ってある。	駒ヶ根市	3		駒ヶ根市	江戸時代				昭和43年発見
1.治水	その他	B	B053	文永寺 梵鐘	天竜川から引き上げられたという伝説を持つ、文永寺鐘楼に懸かる梵鐘。竜頭は中央に宝珠を持つ両頭式で、笠形は大きくふくらみ、葺形の乳は乳の間四区に四段四列に配する。撞座は八葉複弁の蓮華文で、駒の爪に接する下帯に流水文風の文様を配する。鐘銘を欠くものの、1279(弘安2)年の銘をもつ南佐久郡小海町諏訪社の鐘との類似により鎌倉時代を降らない作例と推定され、文永寺創建当初に鑄造された可能性が高い。	飯田市	3		飯田市	鎌倉時代(推定)				
1.治水	その他	B	B054	石造り尺単位の量水標	明治以降～1958(昭和33)年以前。高森町と豊丘村を結ぶ万年橋の数十m下流の右岸。	高森町	3		高森町	明治以降～昭和33年以前				
2.利水	碑など	B	B055	水路記念碑	美和一貫水路記念の碑。	伊那市	3		伊那市					
2.利水	碑など	B	B056	西部開発記念碑	昭和41年に計画された中央高速道路の関連事業として、伊那市より辰野町に至るまでの天竜川西側台地の広大な農地を開発し、この地域の発展を目的として計画されたのが伊那西部農業開発事業である。その記念碑。	伊那市西春近	3		伊那市					

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
2.利水	碑など	B	B057	伊那市上ノ原土地改良記念碑	三峰川総合開発による土地改良事業。記念碑は1970(昭和45)年建立。	伊那市	3		伊那市	昭和45年	1970		
2.利水	碑など	B	B058	土地改良記念碑	原新田の地古来水に乏しく、井を掘り田を拓くは村人の宿願であった。1655(明暦元)年、柳沢弥左衛門が開拓を企て、1832(天保3)年伊東伝兵衛が大改修を施すなどにより開田が進んできた。三峰川総合開発により今回の土地改良となった。記念碑は1958(昭和33)年建立。	伊那市	3		伊那市	昭和33年	1958		
2.利水	碑など	B	B059	美簗土地改良記念碑	住民すべて耕作を業とする純農村であり、早く六道原の開拓を初めとして、二番井筋の開発、芦沢南割上大島における水田の整理等常に農地利用の増進に努力しつつ、今日に及んだ。記念碑は1954(昭和29)年建立。	伊那市東春近	3		伊那市	昭和29年	1954		
2.利水	碑など	B	B060	井堰開鑿五十周年記念碑	箕輪南西部は昔から田用水が乏しく、確保が長年の悲願であった。大萱では当初から独自で小沢川系の北沢の赤岩(北沢三軒屋のすぐ西)から取水計画をたてたが取水権は下流の西町が持っていたので権利料を支払って取水可能になった。1872(明治5)年に引いた井筋により14haの開田ができた。	伊那市西箕輪	3		伊那市				
2.利水	碑など	B	B061	月蔵(がつぞう)井筋記念碑	三義から東高遠の城下までの井筋を藩直営で引いたご用水。御家中の用水と、東高遠上段の新田開発が目的というところにこの井筋の特徴がある。薬師堂の下は暗渠にして通水していたが、その石垣に積み込んであったものを、井筋修理の際に掘り出して堂の庭に据えたもので、正式な記念碑とは異なる。	伊那市	3		伊那市	江戸時代(弘化4年)	1847		
2.利水	碑など	B	B062	阪本天山墾田の碑	土石流が運んできた太田切花崗岩。1789(寛政元)年秋の大雨で流れが変わり、土砂が堆積して平地となった。そこで、中村道民は三年かかって堤防を築き、数町歩の水田を造成した。日ごろ産業振興の必要を痛感していた高遠の阪本天山が1792(寛政4)年、現地を訪れこれを誉め称えて、漢文を作り岩に刻ましめた。	駒ヶ根市東伊那	3		駒ヶ根市	江戸時代			
2.利水	碑など	B	B063	駒ヶ根土地改良区記念碑	下平は天竜川太田切川の右岸に拓けた平坦地である。水害にそなえて、部落挙げて協力し堤防の完備に努力をなし、井筋の開発を計り、豊穰な田園を形成し、今日に至った。	駒ヶ根市	3		駒ヶ根市				
2.利水	碑など	B	B064	駒ヶ原耕地整理記念碑	明治の終わり頃、駒ヶ原に水を引き一帯を水田にしようという計画が持ち上がり、1913(大正2)年耕地整理組合が認可された。1931(昭和6)年に一次工事完了。翌年から二次工事が始まり1947(昭和22)年に完了。記念碑は1958(昭和33)年4月、駒ヶ原里宮神社境内に建てられた。	宮田村	3		宮田村	大正8年	1919		昭和33年
2.利水	碑など	B	B065	猿ヶ城用水記念碑	1868(明治初)年企画の用水、1876(明治9)年開始。	飯島町田切春日平	3		飯島町	明治9年	1876		
2.利水	碑など	B	B066	部奈(べな)疎水	部奈井と部奈大堤。松川町生田の部奈は竜西の台地上にあり、北は小渋川の峡谷、西は天竜川に臨む断崖で取水は困難な場所に位置している。庄屋部奈団蔵により弘化元年(1844)の発願により着工されたが、土地持33戸の小村としては過大な大事業であった。取水及び水路が5か村にまたがり難工事と領主交替のなかで苦難の末4年の後完成した。大堤の脇には、部奈村疎水之碑・生魂神社・揚水記念碑がある。	松川町生田	3		松川町	弘化4年	1847		
2.利水	碑など	B	B067	旧堤記念碑・外河原開田記念碑	明治以前は、洪水の度に前河原堤防は破堤を繰り返し、外河原を水田にするのは困難であった。	松川町	3		松川町	明治41年	1908		
2.利水	用水路	B	B069	間夫井	座光寺の「石川除け」付近でまだ使用されている用水路。取水口には大きな石が水路を跨いでいる。この側に、旧北原米太郎邸と北原への「開墾碑」が建っている。1750(寛延3)年、惣兵衛堤防建設と同時に、堤内地を開田するため灌漑用水路(大井(間夫井))の開削も進められた。完成当時の大井(間夫井)がどこまで通じていたのか不明だが、その後の開田により、次第に南の方の座光寺・上郷(飯沼・南条・別府)を経て別府小手抜の放水口まで延長された。	飯田市座光寺	3		飯田市	寛延3年	1750		
2.利水	用水路	B	B072	大泉川扇状地の扇端湧水群	南箕輪村の扇端湧水群は見事である。久保、塩ノ井、北殿、南殿、田畑、神子柴の各区に流れる湧水は、今でも生活や農業用水に活用されている。湧水源は、洞地形になっており、わさびの栽培や養魚場としての水としても使われている。	南箕輪村	3		南箕輪村	江戸時代			

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)	
4.交流	峠	B	B073	権兵衛峠	権兵衛峠は経ヶ岳と駒ヶ岳の鞍部に開いた峠。古畑権兵衛によって木曾谷と伊那谷との交通路として改修された。1696(元禄9)年に開通。峠には江戸時代の石碑が残っている。	南箕輪村	3		南箕輪村	元禄9年	1696			
2.利水	用水路	B	B075	中沢の用水路	駒ヶ根市中沢地区を流れる用水路。	駒ヶ根市	3		駒ヶ根市					
2.利水	用水路	B	B076	原の用水路	飯島町原地区を流れる用水路。	飯島町	3		飯島町					
2.利水	用水路	B	B077	本郷の用水路	飯島町本郷地区を流れる用水路。	飯島町	3		飯島町					
2.利水	分土工	B	B078	中坂分柵	1873(明治6)年に中坂分柵ができた。当初の幅は大泉側が4尺(120cm)、吹上側が1尺(30cm)であったが、使用用途に対する考え方の違いから紛争が発生した。1882(明治15)年、裁判の末ようやく解決した。大泉側が4尺3寸2分5厘(約130cm)、吹上側が6寸7分5厘(約20cm)の割合に決まった。現在の分柵はコンクリート製であるが、寸法は1882(明治15)年のままである。	伊那市西箕輪	3		伊那市	明治6年	1873			
2.利水	取水堰	B	B079	二寸取り入れ口	1873(明治6)年、上井から大泉新田への取水はこの「二寸口」からだけと取り決めをした。水利権争いを治めるために県から派遣された本山盛徳が慣行水利権を無視して許可したもので「取り入れ口」と言うにはあまりにも狭い取水口幅であった。	箕輪町中曾根	3		箕輪町	明治6年	1873			
2.利水	取水堰	B	B080	箕輪取水堰	従来のコンクリート製の堰が変わって建設されたゴム製の堰。中に空気を入れてゴムを膨らませ、川を堰き止める。空気を抜くと平らになるため、洪水時など従来よりも水位を低く抑えることができる。(ゴム堰)	箕輪町三日町	1		箕輪町					
2.利水	ため池	B	B081	夫婦堤	野底川左岸の用水路「中井」の流末に二つのため池を囲む堤があった。1772~1780(安永年間)年に、堤仲間の努力により夫婦堤(温水溜池)を築造した。この堤建設の目的は、北村井の水を不用時に貯えたと共に、堤の上手からの湧水を貯える事だった。築造後、1859(安政6)年と1937(昭和12)年に改造している。竜西一貫水路の完成と北村井灌漑地域の宅地化によって使用されなくなり、埋め立てられ、跡地は考古博物館になっており、1993(平成5)年碑が建てられた。	飯田市上郷別府	3		飯田市	安永年間	1780			
3.産業	猪垣	B	B085	飯田市北方丸山の猪垣	1693(元禄6)年頃農民が人員や費用を出し合って作ったもの。延長約2.5km。深さ3尺(約90cm)の溝を掘り、里側に土塁を築き、その上に4尺(約120cm)の柵が作られていたと言われている。江戸時代の終わりまでは修理を重ねてきたが、現在北方で猪垣跡が残っているのはここだけ。1998(平成10)年に復元された。	飯田市丸山町	3		飯田市	江戸時代 元禄6年	1693			
3.産業	猪垣	B	B086	飯島町の猪垣	飯島町内に、上通り遠見石・長助林・春日平柳・岩間上山・追引聖徳寺・日曾利山の田など、複数箇所残っている。構築時期については古文書などの手がかりが無く不明であるが、江戸時代後期にはすでに存在した可能性が高いと思われる。	飯島町	3		飯島町	江戸時代後期 (推定)				
3.産業	林業	B	B087	木馬道(キンマミチ)	木材を山から出す方法は、山の条件によってちがうが、大量の木材を運搬するにはキンマと呼ぶ道具を使った。キンマミチと言って直径3寸から5寸くらいの丸太を2尺間隔に敷いて、その上をソリの形をしたキンマで運んだ。キンマは1955(昭和30)年前半まで使われ、大草にはキンマミチの跡が残っているが、山中にあり整備はされていない。	中川村大草	3		中川村	昭和30年代前 半まで				
3.産業	鉄採掘	B	B088	下條村入ノ洞の「金くそ」	下條村粒良脇の二柱神社境内に小さな屋形があり、そこにある茶褐色の重そうな石の塊。入ノ洞の谷には鉄分の多い塊が出てくる場所があり、近くの人々は「金くそ」と呼んでいた。古くから鉄の生産をしながら農業をし、鉄はなべ・かま・すき・くわになり生活を支えてきた。鉄工房の地名も残る。鉄が不足した時期は、飯田方面から金くそを拾いに来た人をよく見かけたという。	下條村粒良脇	3		下條村					

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
3.産業	発電所	B	B089	美和発電所・春近発電所	美和発電所は、長野県電気事業初の発電所として1958(昭和33)年から運転を開始した。この発電所は美和ダムの直下に位置し、同ダムから発電用水を取水し、最大出力12,200kwの発電を行った後、高遠湖(高遠調整池)に放流している。春近発電所は、美和発電所とともに三峰川総合開発事業の一環として建設し、高遠湖から取水した水を約10.6km導水して、最大出力23,600kwの発電を行っている。	伊那市長谷非持、伊那市東春近	1		伊那市	昭和33年	1958		
3.産業	発電所	B	B091	南向発電所	1929(昭和4)年完成。中川村葛島にある中部電力の発電所。駒ヶ根市吉瀬にある南向ダム(吉瀬ダム)より取水される。	中川村葛島	1		中川村	昭和4年	1929		
3.産業	番所	B	B092	大久保番所跡	1682(天保2)年、高遠藩木材改の番所が置かれた。木材改役に東伊那(駒ヶ根市)の中村家が世襲で任命されていた。天竜川上流ならびにその支流を川下げる材木を管理し、高遠領の木材を満島番所まで運ぶいっさいを取り締まっていた。	駒ヶ根市東伊那	3		駒ヶ根市	江戸時代(天保2年)	1682		
3.産業	番所	B	B093	満島番所/満島	播り鉢型に四方を囲まれた地形で、その底を天竜川が半周している。満島は、信州諏訪湖に源を発し、遠州灘へ流れる全長216kmの天竜川のほぼ中間に位置する。同所は、信州の主な樽木(木材)生産地から流れてた小渋川、阿知川、和知野川、遠山川の四つの支川が、本流である天竜川に合流する地点より下流にあった。したがって、樽木成材をはじめとする木材生産地から搬出される木材を、すべて監視及び統制することができた。	天龍村	3		天龍村				
4.交流	橋	B	B094	新水神橋	1985(昭和60)年10月。親柱には伊那節の踊り子の像が、欄干にも踊り手の振りが透かし彫りでいくつも嵌め込まれている。	伊那市	1		伊那市	昭和60年	1985		
4.交流	橋	B	B095	水神橋	1953(昭和28)年7月。大正初期に水神通りができて、それと同時に橋ができた。上流の箕輪橋、明神橋と同じ三つ山連続のコンクリートローゼ橋であるが、その中で最も旧く県下で2番目と言われる。	伊那市	1		伊那市	昭和28年	1953		
4.交流	橋	B	B096	二条橋	竜東と伊那市中心部を結ぶ橋。中央道との関連も含めて益々重要性を帯びた橋になった。形式は二径間単純PCT型桁橋。	伊那市	1		伊那市	昭和51年	1976		
4.交流	橋	B	B097	中央橋	親橋は御影石横積四段重ねで大きくどっしりしている。上流の大橋と下流の桜橋との間に架けられたので中央橋と名付けられた。下流側に歩道橋がつけられている。護岸は緩やかな傾斜をみせている。	伊那市	1		伊那市	昭和35年	1960		
4.交流	橋	B	B099	桜橋	昔は右岸の地名から桜島橋と呼んだが、後年桜橋と省略されるようになった。竜東孤島地区と市内春日町を結ぶ、交通量も増大し、ますます重要度を増した橋である。親柱の銘板には最初から年月がない。これはこの橋だけである。	伊那市	1		伊那市	昭和50年	1975		
4.交流	橋	B	B100	毛見橋	伊那市二条橋付近から沢渡までの間、天竜川堤防上に国道153号線のバイパスが開設されてからますます橋の重要度が増している。旧く高遠藩の役人がこの橋の上から稲作のできを検分したと言われ、それに由来して検見から毛見になったという。	伊那市	1		伊那市	昭和47年	1972		
4.交流	橋	B	B101	平成大橋	1993(平成5)年4月。伊那市役所が移転したために道路ができて架けられた橋。親柱の飾りのオブジェは、伊那谷を渡る風と天竜の流れを象徴したという。年号を橋名にしたのは上流辰野町の昭和橋とこの二橋のみである。	伊那市	1		伊那市	平成5年	1993		
4.交流	橋	B	B102	春近大橋	東西春近を結ぶ交通の要衝。1693(元禄6)年長さ23間の定橋をかけたが、1710(宝永7)年に流され、以後たびたび架橋、流失を繰り返したが、1835(天保6)年高遠藩の補助のもと、長さ35間の定橋をかけ、左岸に岐神を、右岸に殿島橋記碑を建立し、交通の平安を祈った(殿島橋記碑はその後、1969(昭和44)年、道路拡張のため、春近神社境内に移転された)	伊那市	1		伊那市	平成2年	1991		
4.交流	橋	B	B103	殿島橋	堂々たる御影石の親柱、橋名は変体仮名混じり。横書きで現在ではこの一橋のみ。昔から交通の要衝として重視されていたことを思わせる堂々とした橋であった。老朽化が著しく、現在は自転車歩行者用として利用されている。ゲートが取り付けられていて自動車は入れない。	伊那市	1		伊那市	昭和11年	1936		



■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ :次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ :ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	橋	B	B105	駒見大橋	駒ヶ根市は中央アルプスと南アルプスに囲まれ、『アルプスがふたつ映えるまち』のキャッチフレーズをもち、駒見大橋の名称はその二つのアーチをアスブスに見立て、東西の「ふたつのアルプス」をつなぐ橋としてつけられた。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	平成12年	2001		
4.交流	橋	B	B106	天竜大橋	駒ヶ根市市内と中沢地区、さらには国道256号線から長谷村を結ぶ重要な橋。親柱の飾りは龍で呵咩像である。まことに見事な作品で豪雨の時など正に雲を呼び、風を呼ぶの感あり、橋の守り、交通の安全を願うにはこれに勝るものはない。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	昭和63年	1988		
4.交流	橋	B	B107	小鍛冶大橋	親柱には渡船のレリーフ、その昔渡船場だったという。財政・技術の面からなかなか橋が架からず長らく船に頼っていた場所。照明灯が変わっていて、蛍光灯が欄干にうめこまれている珍しいタイプの橋。このタイプはこの一橋のみ。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	平成2年	1990		
4.交流	橋	B	B108	吉瀬橋	上流側に吊橋の大きなコンクリート製の鉄塔が残されている。橋の手前右側に小公園がある。高遠藩の分杭「従是北 高遠領」の大きな石の角柱が立っている。字も石も彫りも立派である。	駒ヶ根市	1		駒ヶ根市	昭和33年	1958		
4.交流	橋	B	B109	阿島橋	県道18号伊那生田飯田線をそのまま下って喬木村阿島に入る。右手に折れると橋に至る。1940(昭和15)年頃までは夏は渡船、冬の渇水期には土橋をかけていたという。1949(昭和24)年木橋吊橋を架設したが、1年後天竜川の氾濫で消失。それから架橋までは渡船を利用していた。	飯田市・喬木村	1		飯田市・喬木村	昭和41年	1966		
4.交流	橋	B	B110	弁天橋	飯田側には天龍船下りの弁天港、左岸下流には橋の名前にもなった弁天様が岸近く小高い岩の上に祀られている。度々の洪水にも流されなかったという。岸から大きな石がギッチリ伏せられていて、渇水期にはそこまで行くことができる。	飯田市・喬木村	1		飯田市・喬木村	昭和41年	1966		
4.交流	橋	B	B111	水神橋	五径間箱桁橋。弁天橋への道を更に南下すれば水神橋。テトラポットが水際に投入されており、何度かの水害と闘った跡形である。	飯田市	1		飯田市	昭和54年完成	1979		
4.交流	橋	B	B112	字ヘッタレ橋	奇妙な名を刻まれた碑がある。明治期以降、橋は毎年のように襲う洪水に流され、幾度と無く架け替えをしてきた。字ヘッタレ橋も大雨で流れたが、和田と押出を短距離で結ぶ貴重なルートだった。	飯田市	1		飯田市	明治38年完成	1902		
4.交流	橋	B	B113	天龍橋	旧橋はトラス状に組んだアーチが美しい「ブレーストリブ・タイドアーチ」という形式。それより以前は木造の吊り橋があった。新橋もアーチ形式を引き継ぎ、鋼下路ローゼ桁の大規模な橋。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市	1		飯田市	昭和9年竣功	1934		
4.交流	橋	B	B114	つつじ橋	天竜峡公園の観光用の橋である。緑色に塗られた鉄塔に支えられたケーブルが対岸まで伸びている。揺れ止めはついているが怖がって渡り切れない人が多いという。対岸は一際高い臥竜峰、橋上から眺める天竜峡はまさに天下の名勝にふさわしい絶景。右岸下流に天竜舟下りの終点港がある。	飯田市	1		飯田市	昭和44年	1969		
4.交流	橋	B	B115	第3天竜川橋梁	天竜峡駅を出た上り電車はトンネルに入る。トンネルの出口は鉄橋に連なっていて一瞬である。鉄橋を渡ればすぐ千代駅が目の前である。	飯田市	1		飯田市	昭和7年	1932		
4.交流	橋	B	B116	山の尾橋	辰野の部落に入る手前、対岸に岡谷、下諏訪、辰野の屎尿処理工場である湖北衛生センターの施設がある。橋はここに渡るだけの一径間コンクリート桁橋である。	辰野町、駒ヶ根市	1		辰野町、駒ヶ根市	昭和40年	1965		
4.交流	橋	B	B117	松尾橋	普段は農業道路で地元住民が利用する程度だが、ホテルで有名な松尾峡を控えているのでシーズン中は賑わう。近くにホテル童謡公園があり、ホテルの歌碑、四阿、水あそび場などがある。	辰野町	1		辰野町	昭和53年	1978		
4.交流	橋	B	B118	第2天竜川橋梁	1972(昭和47)年8月。一径間鋼桁橋。	辰野町	1		辰野町	昭和47年	1972		
4.交流	橋	B	B119	清水橋	1918(大正7)年に上流平出橋までの道路開通により架設された木橋が最初で、洪水のたびに損壊し修理補修の繰り返しで架け替えもたびたび行われていた。それから永久橋の現橋になった。	辰野町	1		辰野町	昭和47年	1972		
4.交流	橋	B	B120	大橋	古くは大正橋と名付けられ通称大橋といわれていたという。1938(昭和13)年6月に永久橋となったが、時代の流れと共に拡張改良が必要となり、架け替えられたのが現橋である。	辰野町	1		辰野町	昭和48年	1973		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	橋	B	B121	昭和橋	1963(昭和38)年3月。三径間PCT桁橋。橋の親柱は普通、右岸左岸とも上流側下流側相対なものであるが、この橋の左岸下流のみ高欄が橋幅より大きく開いており親柱はその先端に付いている。このタイプは天竜川ではこの橋だけである	辰野町	1		辰野町	昭和38年	1963		
4.交流	橋	B	B122	城前橋	1958(昭和33年)。三径間PC桁橋。このあたりは小・中学校や工場も多く、歩行者用の幅広い歩道橋が、昭和55年に橋の下流側に取り付けられた。橋から宮木の踏切まで約400mの間、両側は三十数本の大きな桜並木である。天竜川改修工事に合わせて、2010(平成22)年10月、三径間PCT桁橋の新橋に生まれ変わった。	辰野町	1		辰野町	昭和33年	1958		平成22年新橋完成
4.交流	橋	B	B123	新樋橋	旧橋は1933(昭和8)年3月のもので、老朽化が著しく目立ち、車のすれ違いもできない狭さであった。天竜川の改修工事に合わせて、1994(平成6)年10月、三径間PCT桁橋の新橋に生まれ変わった。	辰野町	1		辰野町	平成6年	1994		
4.交流	橋	B	B124	相合橋	1988(昭和63)年7月。二径間非合成桁橋。木橋で人しか通れない時代もあったが、護岸工事に合わせて現橋に替わった。コンクリートの橋桁と一体化した赤い欄干は一直線に天竜川を横断し、木立の緑にとけ込んだ静かな佇まいである。	辰野町	1		辰野町	昭和63年	1988		
4.交流	橋	B	B125	天竜川橋梁	中央高速道が辰野仮出口まで進んできた時に架けられた。橋長100mと表示されている。竣工は1974(昭和49)年。	辰野町	1		辰野町	昭和49年	1974		
4.交流	橋	B	B126	東西橋	1979(昭和54)年。伊北インターも近く、いまや名のごとく東西両岸を結ぶ要路。	辰野町	1		辰野町	昭和54年	1979		
4.交流	橋	B	B127	十沢橋	両岸には圃場整備された水田が続く。橋の近くに家族で十分に楽しめる雰囲気のある「みのわ天竜公園」がある。天竜川の流れに面しての土手にも工夫があり、植栽も多く人気を呼ぶ公園である。	箕輪町	1		箕輪町	昭和37年	1962		
4.交流	橋	B	B128	明神橋	五径間PC桁橋。地域の人々には馴れ親しんだこじんまりした橋。	箕輪町	1		箕輪町	昭和38年	1963		
4.交流	橋	B	B129	箕輪橋	1954(昭和29年)10月。コンクリートの山が三つ連なった三径間RCローゼ橋。	箕輪町	1		箕輪町	昭和29年	1954		
4.交流	橋	B	B130	町田橋	1984(昭和59)年12月。新造成の田園地帯に道路が造られ、それに併せてつくられた橋。	箕輪町	1		箕輪町	昭和59年	1984		
4.交流	橋	B	B131	新箕輪橋	1993(平成5)年11月。親柱には鹿頭の稚児坐像が飾られ、その下には由来を記した銅板が嵌め込まれている。鹿頭稚児は木下南宮神社に古くから伝わる雨乞い神事の鹿踊りに因んだものという。	箕輪町	1		箕輪町	平成5年	1993		
4.交流	橋	B	B134	明神橋	明治末から昭和の初めまでは渡し船だった。両岸から川を越えて太い針金が張っており、船頭がそれを伝わって7~8人乗りの舟で渡してくれたというのが、永久橋が架かるようになると渡しは必要がなくなり姿を消した。	伊那市	1		伊那市	昭和37年竣工	1963		
4.交流	橋	B	B136	大久保橋	1964(昭和39)年3月。上流の両岸には旧吊り橋のコンクリート製橋塔がそのまま残されている。高い橋塔からは当時の吊り橋の偉容が偲ばれる。信濃の橋百選に選定されている。	駒ヶ根市東春近~宮田村大久保	1		駒ヶ根市、宮田村	昭和39年竣工	1965		
4.交流	橋	B	B137	天王橋	三径間単純合成桁橋。	飯島町	1		飯島町	昭和54年	1979		
4.交流	橋	B	B138	日曾利橋	飯田町南田切から対岸の日曾利部落への橋、二径間ワーレントラス型上路橋のスッキリしたスタイル。赤く塗られた手すりは外側に反り返って路幅より大分開いている。	飯島町	1		飯島町	昭和42年	1967		
4.交流	橋	B	B139	飯沼橋	右岸の飯島町本郷から左岸の中川村飯沼へ渡る橋。橋は昭和2年鉄塔をコンクリート造りにして架け替えた吊橋だったというが、橋の跡は見当たらない。	飯島町	1		飯島町	昭和49年	1974		
4.交流	橋	B	B140	牧ヶ原橋	1978(昭和53)年10月。三径連続ヒンジリブアーチ橋。両岸が断崖絶壁のところには建ち、橋の高さは47mある。	中川村	1		中川村	昭和53年	1978		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	橋	B	B141	天の中川橋	最初の架橋は大正二年、その後1946(昭和21)年に村営の吊橋となり、現在の橋は1978(昭和53)年3月。三径間鉄筋コンクリート桁橋。橋の根方には江戸時代に作られた理兵衛堤の石積が一部残っており、当時の農民の心根が察せられる。	中川村	1		中川村	昭和53年	1978		
4.交流	橋	B	B142	天龍橋	1988(昭和63)年9月。五径間非合成鉄桁橋。リングをモチーフにした親柱の飾りや街灯が明るいイメージの橋。	松川町	1		松川町	昭和63年	1988		
4.交流	橋	B	B143	宮ヶ瀬橋	1958(昭和33)年3月。二径間ワーレントラス橋。現橋になる前は天龍川に多い吊橋であり、明治の終わりから幾度が架け替えを行い、現橋となった。	松川町	1		松川町	昭和33年竣工	1958		
4.交流	橋	B	B144	台城橋	1972(昭和47)年4月。三径間連続合成桁橋。西側の台城と呼ばれる山地が断崖となって川に落ち込み、東の山も川近く迫って狭い谷間を形成している。	松川町	1		松川町	昭和47	1972		
4.交流	橋	B	B145	万年橋	1960(昭和35)年3月竣工。永久に保つようこの願いを込めて万年橋と名付けられたというが、度々の洪水で落橋流失が繰り返されたという。現在の橋は二径間ワーレントラス型橋。	高森町	1		高森町	昭和35年竣工	1960		
4.交流	橋	B	B146	明神橋	最初の架橋は明治末期、現橋は昭和5年に架け替えられた五径間ワーレントラス橋。1969(昭和44)年に交通量の増大に伴い、両側に歩道橋が架設されている。	高森町	1		高森町	昭和5年	1930		
4.交流	橋	B	B148	長瀬橋	1973(昭和48)年11月の一径間中路式ローゼ桁橋型の美しい橋。当初はつり橋であったという。その後、補修、改修が続けられ現橋に至る。橋名の由来でもあろうか、下流に泰阜ダムができたため瀬になっている。	下條村	1		下條村	昭和48	1973		
4.交流	橋	B	B150	櫓橋	1978(昭和53)年6月。三径曲弦ワーレントラスの、櫓のようにガッシリとした橋。竜東線の道路の開通により架橋された。	阿南町	1		阿南町	昭和51年竣工	1976		
4.交流	橋	B	B151	竜田橋	1971(昭和46)年12月の一径間鉄製桁吊橋。歩行者専用の橋。	阿南町	1		阿南町	昭和46	1971		
4.交流	橋	B	B154	平岡橋	1985(昭和60)年8月。発電所工事のために架せられた二径間ワーレントラス橋。	天龍村	1		天龍村	昭和60	1985		
4.交流	橋	B	B155	天竜川橋	1955(昭和30)年5月。コンクリートと鉄橋の組合せの六径間ワーレントラス+RCゲルバー橋。天竜と名のつく橋は大橋を含めて十ほどがあるが、天竜川と名乗っているのは県下ではこの一橋のみ。	天龍村	1		天龍村	昭和30	1955		
4.交流	橋	B	B156	水神橋	1983(昭和58)年7月。天竜川を大きく跨いだ三径間の美しいコンクリートラーメン橋。右岸小高いところに水神橋之碑がある。	天龍村	1		天龍村	昭和58	1983		
4.交流	橋	B	B157	平神橋	1977(昭和52)年12月。一径間鋼ランガー橋。橋名は旧平岡村と神原村の一字をとったという。	天龍村	1		天龍村	昭和52年	1977		
4.交流	橋	B	B158	弁財天橋	弁財天橋の架かる三峰川右岸に見える巨石は、洪水で流されたことがないほど堅固。この上に祀られている弁財天が橋の由来。日中戦争の最中、困難が多い工事だったが、1939(昭和14)年に永久橋となった。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市	1		伊那市	昭和14年	1939		
4.交流	橋	B	B159	伊那橋	最初の橋は、天竜川右岸への三州街道の開設に伴い1894(明治27)年に完成。「小沢橋」とも呼ばれた。新街道が馬車交通を発達させ、市街地の発展の重要なきっかけがこの橋の開通にあったと言える。現在の橋は、橋の幅が長さをかなり上回る「広い橋」が特徴。信濃の橋百選に選定されている。	伊那市	1		伊那市	明治27年	1894		
4.交流	橋	B	B160	鼎橋	最初の鉄橋は1884(明治17)年に完成。1909(明治42)年の架け替え以降は改修を繰り返したが、1923(大正12)年に橋脚6本、長さ55m、幅3.6mのハウトラスに改築された。永久橋化は1935(昭和10)年。鉄筋コンクリート製となって現在に至るが、重厚な親柱と高欄が当時の面影を残す。信濃の橋百選に選定されている。	飯田市	1		飯田市	昭和10年	1935		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ :次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ :ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	橋	B	B162	万歳橋	川の流れがクランク状に屈曲する狭窄部に架かり、今ではめったに車は通らない。架橋当時としてはモダンな鉄筋コンクリート製の上路アーチ橋。版上のアーチは放物線を描き、しっかりと両岸の岩盤に脚を踏ん張ってアーチ上面に版を建てて床版を支えている。信濃の橋百選に選定されている。	下條村、飯田市	1		下條村、飯田市	昭和10年	1935		
4.交流	橋	B	B163	万古川橋梁	三信鉄道が建設。開通当時は深い峡谷を越える橋だったが、現在は下流にできた平岡ダムの影響で土砂の堆積が著しく、平らな河床が見えている。ダークグリーン塗装で周囲の森に溶け込むように配慮されている。県内では最大級のスパンを誇る。信濃の橋百選に選定されている。	泰阜村、飯田市	1		泰阜村、飯田市	昭和11年	1936		
4.交流	峠	B	B164	シラビソ峠	上村川上流の東地域の「シラビソ峠」の周辺一帯には「シラビソ高原」がある。シラビソ高原の南に続く尾根の末端の裾には「日本のチロル」と呼ばれる、標高1000m以上、傾斜40度という急峻な地域に発展した山里「下栗」「大野」があり、著名なことから訪れる人も多い。	飯田市	3		飯田市				
4.交流	峠	B	B168	高遠領分杭	「従是東高遠領」と刻字された石製で分杭と呼ばれる境界標。元禄3(1690)年に木製の分杭が建立され、文政10年に石製に造りかえられたが、銘文に領主名ではなく高遠領と領名を記したため幕府の許可が得られず、その場に埋設・放置されていた。伊那市宮田(小沢・伊那・山寺)と駒ヶ根市中越(吉瀬)の4ヵ所に残る。	駒ヶ根市、伊那市	3		駒ヶ根市、伊那市	元禄3年	1690		
4.交流	峠	B	B169	杖突峠	伊那市高遠町と茅野市の境界にある峠。標高1,247m。国道152号が通っている。杖突峠の南に位置する「守屋山」は諏訪大社のご神体であり、かつてこの峠では神降ろしの儀式が行われていた。降りてきた神がはじめてその杖を突く場所がこの峠であることから、杖突峠という名がついたとされる。	伊那市	3		伊那市				
4.交流	峠	B	B171	清内路峠	南木曾町と下伊那郡阿智村の境界に位置する標高1,192mの峠。明治時代、飯田北部に位置する阿智村・清内路村方面より木曾谷に向かうルートとして清内路峠を越える、現ルートの基礎となる道が敷設されたようである。	阿智村	3		阿智村				
4.交流	峠	B	B172	分杭峠	伊那市と下伊那郡大鹿村との境界に位置する標高1,424mの峠。静岡県浜松市の秋葉神社へ向かう街道として古くから利用された秋葉街道の峠の一つである。秋葉街道は西日本の地質を内帯と外帯に二分する中央構造線の断層谷を利用した街道であり、分杭峠は中央構造線の谷中分水界にあたる。	伊那市・大鹿村	3		伊那市・大鹿村				
4.交流	峠	B	B173	青崩峠	浜松市天竜区と長野県飯田市の間にある標高1,082mの峠。国道152号の一部区間で未通区域となっている。峠付近の地質構造は、中央構造線による破碎帯となっており、山腹に広がるむき出しになった青い岩盤から、この峠の名が付けられた。	飯田市	3		飯田市				
4.交流	峠	B	B174	兵越峠	浜松市天竜区と長野県飯田市の間にある標高1,165mの峠。名前の由来は武田信玄が西上作戦の折りにこの峠を越えたからといわれている。	飯田市	3		飯田市				
4.交流	港・船着場	B	B175	葛島渡船場跡	葛島は対岸の片桐新井を結ぶものであり、近藤、千村支配の大草より御料の山本・飯島・私領の高遠・飯田へ通じる道として重要な渡りであった。現在、渡船場の跡を示すものは何も残っていない。	中川村	3		中川村				
4.交流	街道	B	B176	中馬街道	中馬とは江戸時代に農民が馬を使って荷物の運搬をしていたことを指す。中馬街道とは伊那谷の経済の担い手となっていた街道(松本～飯田～三河)で馬頭観音が、そここの道端に祭られている。三河と信州とを結び伊那街道を通るものを「中馬」と呼び、遠州と信州を結ぶ秋葉道を通るものは「馬追い」と呼ばれていた。伊那街道の方が比較的平坦であったため、中馬による輸送が優勢であった。	広域	3		広域				

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	街道	B	B179	秋葉街道	秋葉街道は、高遠的場と飯田八幡から遠州境の青崩峠までの道で、秋葉信仰が広まるよりも前から存在していた古い道。秋葉街道によって運ばれていた重要な産物の一つに、塩がある。 海のない信州に持ち込まれる塩は、日本海からの「北塩」と、太平洋からの「南塩」があった。南塩ルートの主なものには、遠州からの遠信古道と、三河からの中馬街道の二つがあり、中馬街道の成立は戦国時代以降であるが、遠信古道の誕生は古く先史時代に遡る。	広域	3		広域				
4.交流	鉄道	B	B180	阿智の鉄道トンネル	国鉄中津川線の建設予定地で、二ツ山隧道というトンネル入口が残っている。	飯田市	1		飯田市				
4.交流	公園・施設	B	B181	三峰川榛原河川公園	三峰川の河川敷にある公園で、水遊びができる小川がある親水公園。遊具や多目的広場、マレットゴルフ場などがあり、整備も良くされている。	伊那市東春近	3		伊那市				
4.交流	公園・施設	B	B182	東伊那親水公園かっぱ学校	東伊那の大久保橋と塩田川の間天竜川河畔が親水公園となっている。塩田川の近くに「かっぱ学校」の看板が立ててあり、その奥には「かっぱ神社」がある。塩田川の橋には「かっぱの像」や駒ヶ根のかっぱ伝説をまとめた立て看板もある。	駒ヶ根市	3		駒ヶ根市				
4.交流	公園・施設	B	B183	丸塚公園	天竜川のほとりにある公園で児童遊具等、アスレチックもあり、家族で楽しめる。	駒ヶ根市	3		駒ヶ根市				
4.交流	公園・施設	B	B184	下久堅親水公園	長野県天然記念物「三石の枝垂桜は樹齢300年。三つ葉つつじも見所である。	飯田市	3		飯田市				
4.交流	公園・施設	B	B185	大島河原河川公園	平成15年に開業した美しい芝のキャンプ場であり、上村川のほとりでの自然散策が楽しめる。オートキャンプ場も完備されている。	飯田市	3		飯田市				
4.交流	公園・施設	B	B186	みのわ天竜公園	天竜川沿いに親水公園として計画されるとともに昭和63年から制度化された「桜づつみモデル事業」による全国で9箇所内のひとつ、公園と河川が一体となり春には川沿いに桜が咲き、四季それぞれの樹木と伊那谷の広がりを感じる公園であり町民の憩いの場になっている。	箕輪町	3		箕輪町				
4.交流	公園・施設	B	B187	与田切公園	与田切川の河畔にある親水公園でアルプスを眺めながら自然を感じ、プール、テニスコート等の施設で遊び満喫できる。桜の時期には約500本の桜が色づき、道路の上に桜のトンネルができ楽しめる。与田切公園内の「越百の水」が信州の名水・秘水15選に選定された。	飯島町	3		飯島町				
4.交流	公園・施設	B	B188	天の中川河川公園	芝生広場、スポーツ広場、自然観察園、水辺の広場、ふれあい広場と天竜川の河川に広がる自然と親しむことのできる公園である。	中川村	3		中川村				
4.交流	公園・施設	B	B189	かわせみの家	高森町のカヌーの拠点施設として、多くの方々に親しまれてきたカヌーハウスがリニューアルされ、かわせみの家としてオープンした。	高森町	3		高森町				
5.風土	地形	B	B190	十二天の森 断層観察広場 / 十二天の池	市街地に残された貴重な自然平地林。自然観察の場として保護されている。また、この森の東端は田切断層の断層崖で露頭を見られる。 自然の池に手を加えて灌漑(かんがい)や馬の飼育に必要な用水を確保するための溜池として天明5(1785)に築堤されたといわれている。池の西端の2か所に湧水が見られ、池の水源となっている。	駒ヶ根市	2		駒ヶ根市	天明5年	1785		
5.風土	地形	B	B191	切石公園	「切石」「重ね石」「地藏石」「袋石」「御座石」「蛇石」「小袋石」など、氷河の力と、洪水の力によって、駒ヶ岳の頂上から運ばれてきた石がある。氷河時代に巨石が人間の住む平地にまで押し出された石は日本中でここしかない。	駒ヶ根市	2		駒ヶ根市				
5.風土	地形	B	B192	臼井原	『日本の地形レッドデータブック』にあげられる重要かつ貴重な変動地形。	飯田市	2		飯田市				
5.風土	地形	B	B193	段丘地形	砂れきがつもってきた河岸段丘。	伊那市	2		伊那市				

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
5.風土	露頭	B	B194	溝口露頭	中央構造線露頭。美和ダムの湖中央部にある吊り橋の右岸側に「観察公園」が整備されている。	伊那市	2		伊那市				
5.風土	露頭	B	B195	辻沢の断層露頭	伊那谷特有の活断層である前ずれ断層が出現。馬見塚公園の南方に、辻沢の谷がある。ここで断層がつくった奇妙な地形と前ずれ断層をみることができる。	駒ヶ根市	2		駒ヶ根市				
5.風土	露頭	B	B196	活断層の露頭	1963年頃、国道の改良工事を行った崖の隣、赤坂公会堂の湧き水のあるところ。	飯島町	2		飯島町				
5.風土	露頭	B	B197	安康露頭	中央構造線露頭。長野県天然記念物	大鹿村	2		大鹿村				
5.風土	露頭	B	B198	北川露頭	中央構造線露頭。長野県天然記念物	大鹿村	2		大鹿村				
5.風土	地質	B	B199	天竜川の七石	天竜真黒石、竜溪石、天竜斑石、天竜巣だち石、天竜五彩石、天竜龍眼石、天竜赤石。	伊那市	2		伊那市				
5.風土	その他	B	B200	高遠城址の桜	高遠城は戦国時代、武田信玄の家臣であった山本勘助が改修した堅城。別名兜山城(かぶとやまじょう)とも言われる。現在、当時の建物は解体・移築され、かつての敷地内には残っていない。廢藩置県後、旧高遠藩士達が桜の馬場から桜を城跡に移植し、明治8(1875)年に高遠城址公園となった。春になるとこの地にしか咲かない約1,500本のタカトオコヒガンザクラが咲く。	伊那市	2		伊那市				
6.その他	その他	B	B201	荒井の切通し遺構	川に向かって急崖を直線的に下る切通し。	伊那市	1		伊那市				
6.その他	その他	B	B202	飯島陣屋跡	飯島町にあった代官所(代官陣屋)のひとつ。観光施設となっている。延宝5(江戸時代)、信濃国のうち、伊那谷にある幕府天領を治めるために設置された。明治政府によって「伊那県」が創設され、その県庁にもなった。明治時代に取り壊された建物を、発掘調査や古文書に基づいて現地で再現し、公開している。	飯島町	3		飯島町				
2.利水	用水路	B	B203	横井戸群	大新、東垣外、御井神など碑があるもののほか、南箕輪村には現在でも使われている横井戸が多数ある。	南箕輪村	1		南箕輪村				
2.利水	用水路	B	B204	伊賀良井	伊賀良井は広範な台地を潤し、農業生産を支えた。その範囲は伊賀良地区の北方、上殿岡、大瀬木、下殿岡各村のほか、鼎地区の山村、一色、名古熊、さらに桐林、駄科、長野原、時又各村にまで及んだ。伊賀良井地区では、松川から取水している用水路を改修している。用水路は自然石と魚巣ブロックを使用して景観と生態系に配慮した構造になり、水路に流入した砂を取り除く沈砂池も、親水公園として整備されている。1075(承保2)年、奥山平太夫が松川の右岸妙琴原と下流の須志角に取り入れ口を持つ両井を開削した。その後妙琴原からの井筋を「太郎井」(中山道井、荒井とも呼ばれた)、須志角からの井筋を「次郎井」と呼んだ。次郎井は後に「伊賀良井」「北方の太郎井」「大井の川」と呼ばれた。	飯田市鼎切石～北方	2		飯田市	承保2年	1075		
2.利水	用水路	B	B205	大泉川からの引水	大泉区の生活用水である上井(施主は湯沢曾右衛門)、下井、中井は大泉川の上流部から頭首工で取り入れている。このほか下流部には南殿区田畑区にも頭首工があり農業用水・生活用水として今でも活用されている。	南箕輪村	1		南箕輪村				
2.利水	ため池	B	B206	たつの海	東天竜用水路の竜東地区の水不足解決策として、荒神山の観光開発と併せて作られた温水溜池。昭和45年完成。2010年ため池100選に選定。	辰野町	3		辰野町	昭和45年	1970		
4.交流	橋	B	B207	羽衣橋	当時通行に不便であった、旧高遠町から旧河南村に渡る橋として、支那事変の始まりの頃工事に着手し、昭和14年10月に完成した。	伊那市	1		伊那市	昭和14年	1939		
4.交流	橋	B	B208	天女橋	長野県でも一番初めの官費の土橋が昭和37年に近代的な鉄製吊橋に生まれ変わった。	伊那市	1		伊那市	昭和37年	1962		
4.交流	橋	B	B209	白山橋	平成6年完成。高遠町の三峰川左右岸の小原と東高遠地籍を繋ぐ重要な橋。観桜期の交通対策にも大きな効果が図られた。	伊那市	1		伊那市	平成6年	1994		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。



■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

□ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
4.交流	道路	B	B210	白山トンネル	平成6年開通。三峰川の左右岸を走る旧国道152号、県道芝平高遠線は高遠のダムサイトの渓谷を通るカーブが多い狭い道路であった。このトンネルの開通により、勝間地区、長藤地区の生活道路として安全で容易に通行できるようになり、通学する子供たちの安全対策も図ることができた。	伊那市	1		伊那市	平成6年	1994		
4.交流	街道	B	B211	一里塚	初期中山道の道筋に残る一里塚。江戸から58～60里目。58里目の楡沢の一里塚は、上伊那で唯一、一対がほぼ完全な形で残されている。	辰野町	3		辰野町				
4.交流	街道	B	B212	旧小野家住宅(小野宿問屋)	伊那街道小野宿の問屋役・名主を務めた小野家の住宅。間口10間半の本棟造り。長野県宝。	辰野町	3		辰野町				
6.その他	碑など	B	B213	飯沼の庚申石祠	両側には馬頭観音や西国巡礼供養塔など何体もの石造物が並ぶ。明暦4年建立。辰野町で年号の判明している庚申塔の内、最古のもの。町指定文化財。	辰野町	3		辰野町				
6.その他	その他	B	B214	七蔵寺の百体観音	旅人が安全などを祈願して建立したとの言い伝えがある百体の観音が、およそ50mにわたり一列に並んでいる。明治の道路改修の時に現在地に移したという。	辰野町	3		辰野町				
6.その他	その他	B	B215	持地地藏菩薩	守屋貞治の作った仏像。石材は高遠産の青石を使用している。町指定文化財。	辰野町	3		辰野町				
6.その他	その他	B	B216	聖観世音菩薩	守屋貞治の作った仏像。石材は高遠産の青石を使用している。町指定文化財。	辰野町	3		辰野町				
6.その他	その他	B	B217	延命地藏菩薩	守屋貞治の作った仏像。石材は高遠産の青石を使用している。町指定文化財。	辰野町	3		辰野町				
5.風土	露頭	B	B218	板山露頭	中央構造線。領家変成帯側(向かって左側)に、マグマから固まってできた花崗岩がさらに変形した岩石も見られる。三波川変成帯側(向かって右側)に、黒色片岩(泥質片岩)が見られる。	伊那市	2		伊那市				
2.利水	用水路	B	B219	御用水	旧飯田町と御用水。近世、飯田町と上飯田村の人びとの生活を支えた御用水。	飯田市飯田	3		飯田市				
1.治水	碑など	B	B220	三六災関係の石碑(大門町 野底川沿い)	三六災害の被災状況等を記した碑と七地藏	飯田市	2		飯田市				
1.治水	碑など	B	B221	三六災関係の石碑(座光寺 河原会所前)	三六災害の被災状況等を記した碑	飯田市	2		飯田市				
1.治水	碑など	B	B222	三六災関係の復興記念碑(松尾明)	三六災害の被災状況等を記した碑	飯田市	2		飯田市				
1.治水	碑など または 橋	B	B223	三六災関係の石碑(伊賀良 中村 久米路橋)	埋木はなか虫はむといふ免れハ久米路の橋波こゝろ志て逝け 読人不知 遠山白雲書(裏面)古歌で知られた久米路橋はこれまで土橋であったが1961(昭和36)年6月集中豪雨災害のため流失し1963(昭和38)年復旧したが昔日の面影はない。茲にその跡に建碑して後世に伝える (3名)	飯田市	2		飯田市	昭和8年(久米路橋)	1933(久米路橋)		

※選定リスト(ランクA)に絞り込むための作業用資料につき、十分に精査した内容となっていない箇所が含まれることを予めご了承ください。

■資料-1 人と暮らしの伊那谷遺産プロジェクト 基本リスト(事務局素案)【ランクB】

■ : 次回委員会(来年度)でのランクA追加提案事項

▨ : ランクBへの新規追加提案事項

大分類	小分類	ランク	No.	名称	説明	所在地	選定基準	除外基準	市町村名	年代	(西暦)	キーワード	建立の年代(碑など)
2.利水	ため池	B	B224	番匠田の堤	下久堅は、段丘の上にあつて天竜河畔にありながら用水に不便な場所が多い。天竜川支流の富田沢川・いたちが沢などは深い谷間を流れ、用水を引くのも簡単ではない。そのため、南原のようにいたちが沢から用水を上げることに成功した地区の他は、ため池がほとんどの地区につくられた。知久平では、「番匠田の堤」が、1857(安政4)年、角領(柏原村小林)、牧野内(柿野沢)、知久平の地境に人足2456人8分で作られた。	飯田市	3		飯田市	安政4年	1857		
2.利水	用水路	B	B225	南原の大井	いたちが沢から取り入れた井で、下久堅では最大。文永寺の用水路としてつくられたと言われ、文永寺の庭地へ流れ込んでいる。1554(天文23)年の武田信玄による文永寺放火以前からあったと言われ、大変古くからつくられたとされる。	飯田市	3		飯田市				
1.治水	祭事	B	B226	樽木踊り	泰阜村南部に残る民俗芸能であり、毎年8月に同村温田にある南宮神社で行われている。江戸時代の慶長年間から続いており、国選択無形民俗文化財に指定されている。江戸時代、現在の泰阜村南山地区では、耕作地が少なく、米の代わりに屋根板として用いられる樽木を年貢として納めていた。樽木踊りは、鎌倉時代に発生した「念仏踊り」を源流とし、年貢の完納を喜び神々に感謝するために行われるようになった。	泰阜村	3		泰阜村				
3.産業	発電所	B	B227	松川発電所	1899(明治32)年飯田電灯(株)は、米国製発電機を使って伊那谷で最初の発電所(松川第一発電所)を建設した。最大出力75kW。1930(昭和5)年に廃止され、今は発電に使う水を通した導水路(石積み)を対岸に残している。1919(大正8)年松川第二発電所を下流に、1924(大正13)年松川第三発電所を上流に建設。1930(昭和5)年松川第四発電所を新設し、第一・第二発電所は廃止された。	松川町	1		松川町	明治32年	1899		
1.治水	災害の伝承	B	B233	歌舞伎演目「三六災害半世紀」	中尾歌舞伎保存会は、長谷で被害の出た三六災害を題材に歌舞伎を創作した。舞台は、長谷をイメージした江戸時代の山村。10年前に妹を土石流で流された主人公が、再び起きた土石流に立ち向かう姿を描く。脚本は、天竜川上流河川事務所前所長、草野慎一氏が書き、日本芸術文化振興会顧問 織田紘二氏が監修して台本化した。	伊那市長谷	2						
4.交流	峠	B	B234	治部坂峠	標高1,191m。治部坂峠は、阿智村(旧浪合村)と平谷村との境にあり、三州街道の最高標高地点である。峠の北側の崖上には、武田氏以来の関所跡があり、礎石などの遺構が残っている。峠付近の山麓部は戦前は牧場として利用されていたが、最近では避暑地として別荘地が整備されたり、スキー場が開発されている。	阿智村、平谷村	3		阿智村、平谷村				